

平成21年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて ～北海道(公立)における調査結果～

本調査結果は、国が公表した調査結果のうち、「平成21年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」に示された全国の調査結果に基づき、現時点において、全国と本道の公立学校における調査結果の比較ができるように取りまとめた概要を掲載したものである。
調査の概要

- 1 調査の目的 ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

- 2 調査の対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数・数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数・数学B〕
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日

平成21年4月21日(火)

5 4月21日(火)に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道(公立)

〔参考〕全国(公立)

	対象学校数(校)	学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,234	1,226(99.4%)	45,921	小学校	21,527	21,482(99.8%)	1,137,844
中学校	670	659(98.4%)	45,840	中学校	10,171	9,851(96.9%)	1,033,909
合計	1,904	1,885(99.0%)	91,761	合計	31,698	31,333(98.8%)	2,171,753

小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む

修学旅行のため当日実施できず、後日実施した学校数(中6校)、対象児童が病欠のため当日実施できず、後日実施した学校数(小2校)

インフルエンザによる学校及び学級閉鎖のため、後日実施した学校数(小6校、中5校)

小学校国語 A

平均正答率が66.0%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

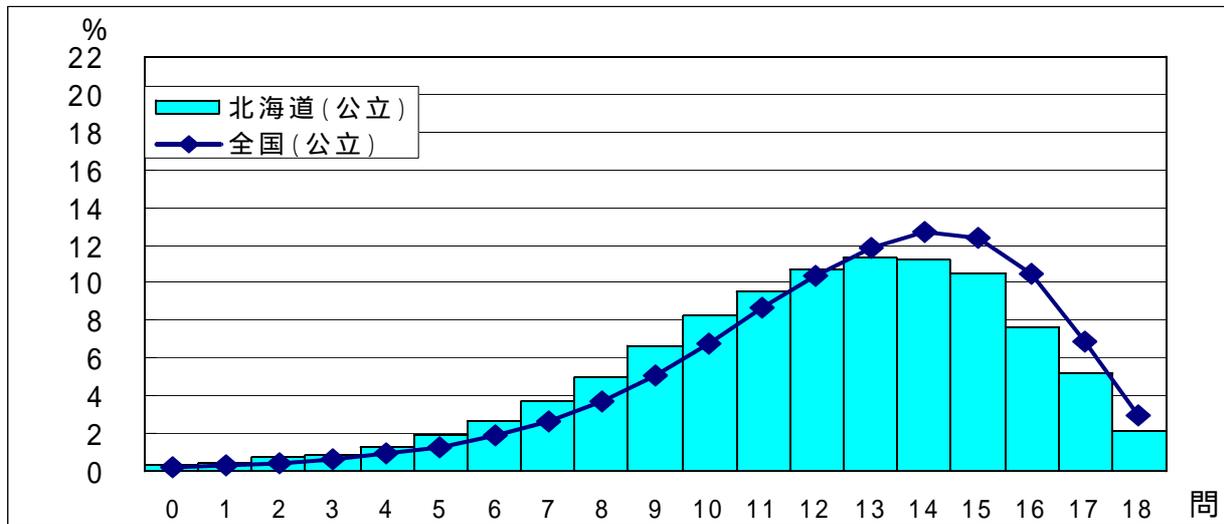
全国と比べて3.9ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(66.0%) H20(60.5%) 全国:H21(69.9%) H20(65.4%)

【平成21年度】国語 A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,921人	11.9問/18問	66.0%	12.0問	3.6
全国(公立)	1,137,808人	12.6問/18問	69.9%	13.0問	3.4

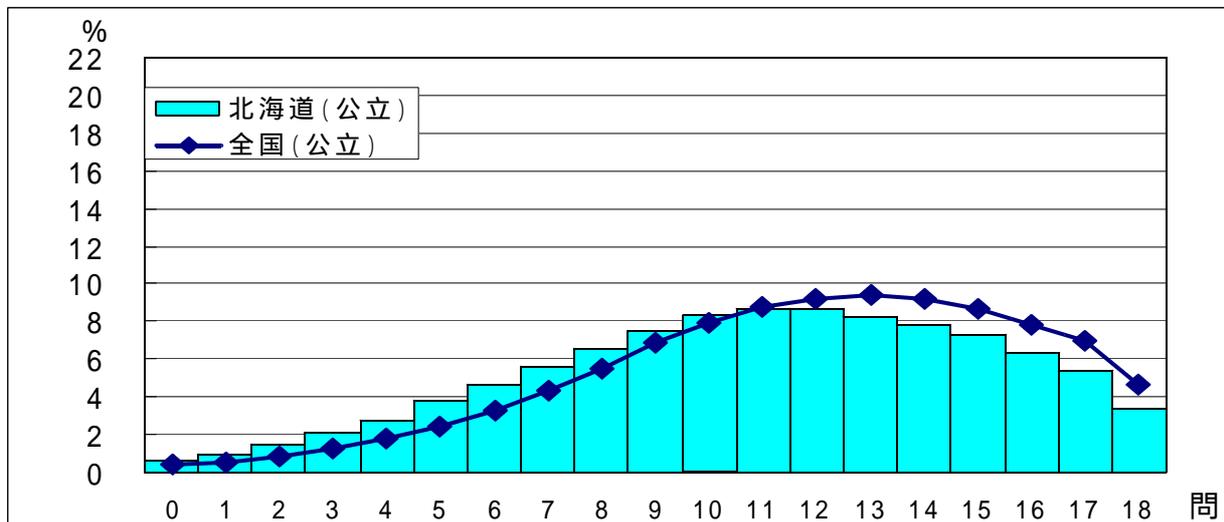
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



[20年度国語 A]

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	47,413人	10.9問/18問	60.5%	11.0問	4.2
全国(公立)	1,147,582人	11.8問/18問	65.4%	12.0問	4.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



小学校国語 B

平均正答率が45.9%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題が見られる。

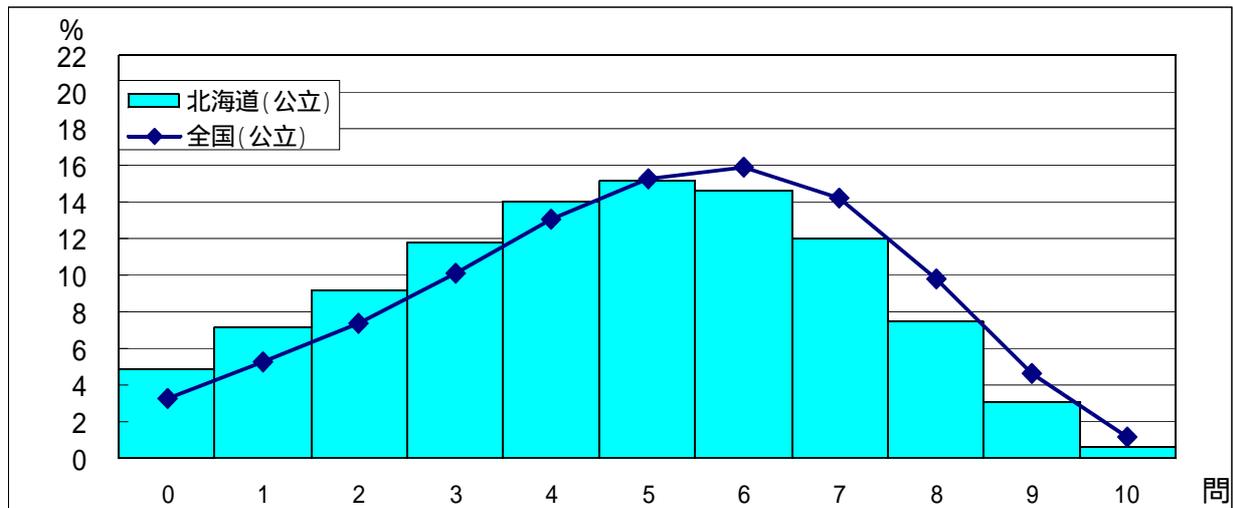
全国と比べて4.6ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(45.9%) H20(46.4%) 全国:H21(50.5%) H20(50.5%)

【平成21年度】国語 B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,903人	4.6問/10問	45.9%	5.0問	2.4
全国(公立)	1,137,598人	5.1問/10問	50.5%	5.0問	2.3

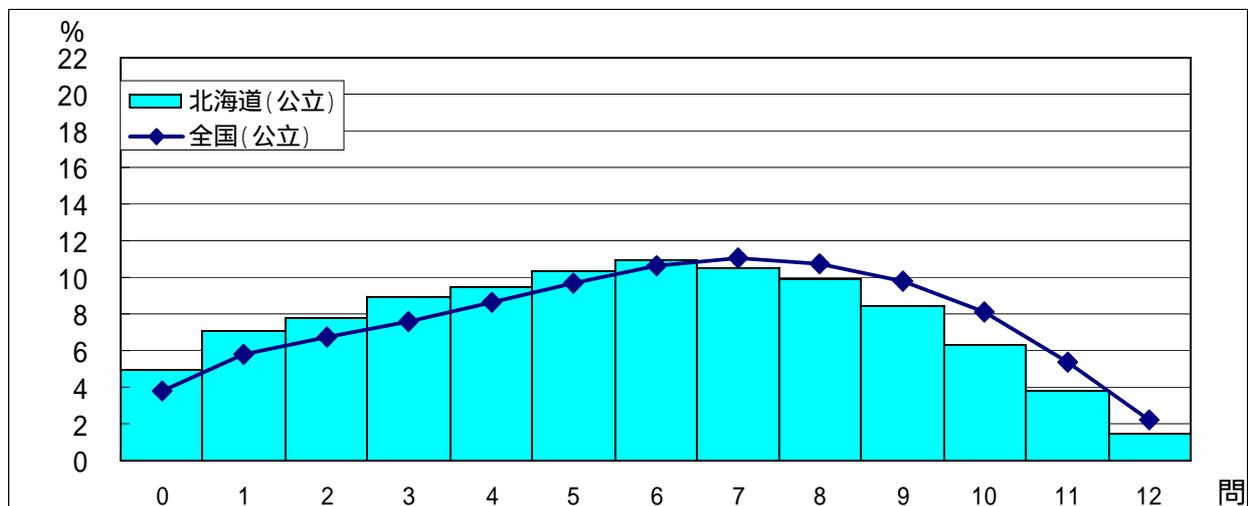
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



[20年度国語 B]

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	47,399	5.6問/12問	46.4%	6.0問	3.1
全国(公立)	1,147,406	6.1問/12問	50.5%	6.0問	3.1

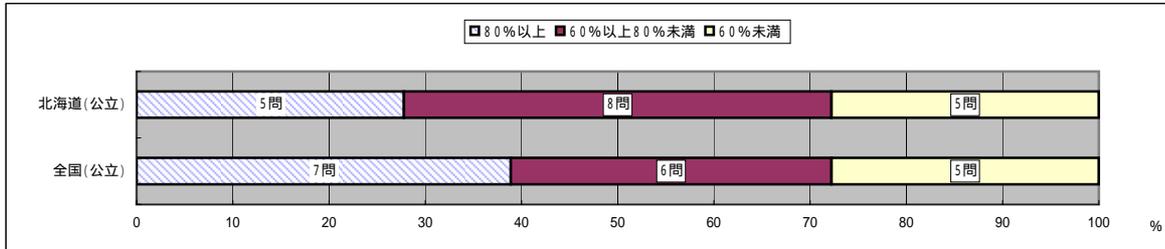
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



設問別の正答率に見る調査結果

国語A(知識)について、正答率80%以上は、18問中5問であり、正答率60%未満は、5問であった。
 国語B(活用)について、正答率80%以上は、10問中1問であり、正答率60%未満は、8問であった。

1 国語A(知識)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
4	書くこと	文章の内容に合わせて、小見出しを書く	94.0%	94.7%
1-(1)	言語事項	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む	94.0%	95.2%

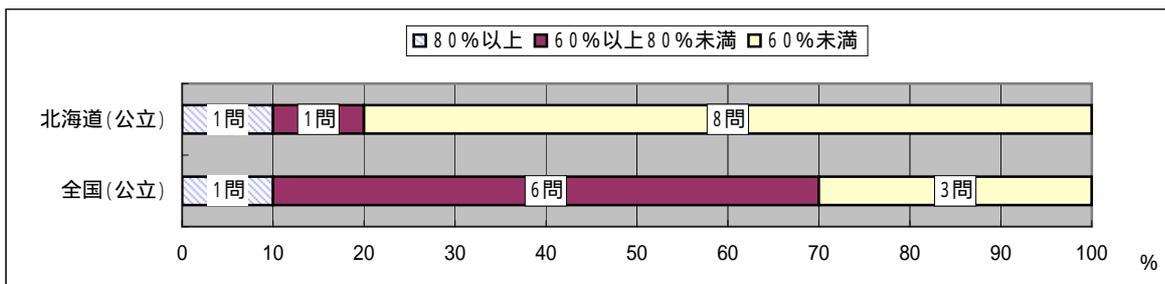
5問中2問を例として掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
5	読むこと 言語事項	文学的な文章の表現の工夫をとらえる	55.6%	58.7%
8	言語事項	文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	11.2%	14.7%

5問中2問を例として掲載

2 国語B(活用)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
4-	話すこと・聞くこと	目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す	81.6%	86.1%

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
1-	書くこと	調べる内容を見通して、必要な事柄を整理する	8.1%	11.4%
2二	話すこと・聞くこと	自分の立場や意図を明確にして話し合う	22.0%	25.7%

8問中2問を例として掲載

小学校算数 A

平均正答率が74.1%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

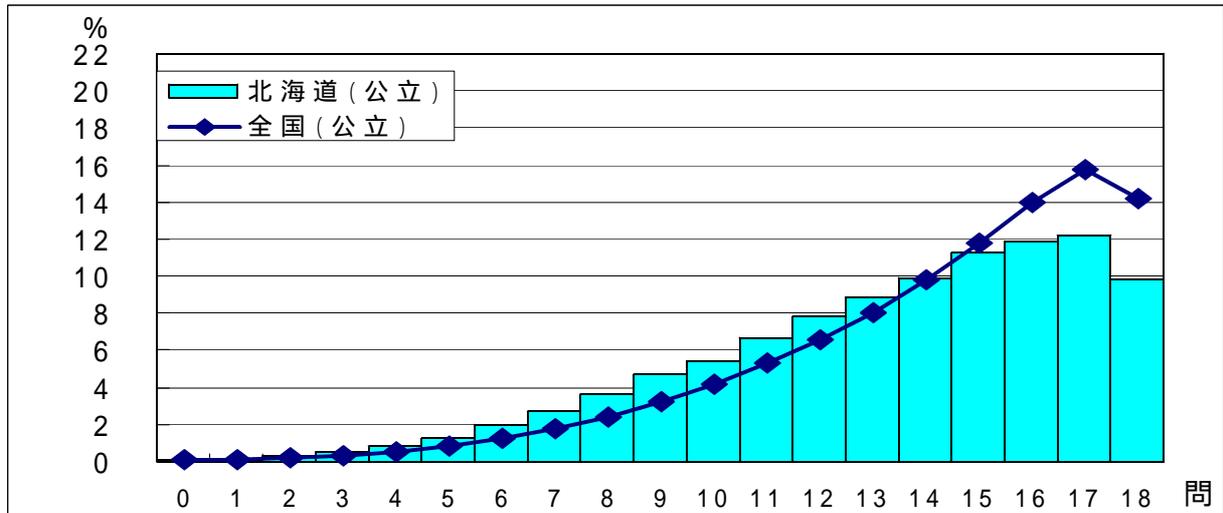
全国と比べて4.6ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(74.1%) H20(66.4%) 全国:H21(78.7%) H20(72.2%)

【平成21年度】算数 A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,920人	13.3問/18問	74.1%	14.0問	3.6
全国(公立)	1,137,844人	14.2問/18問	78.7%	15.0問	3.4

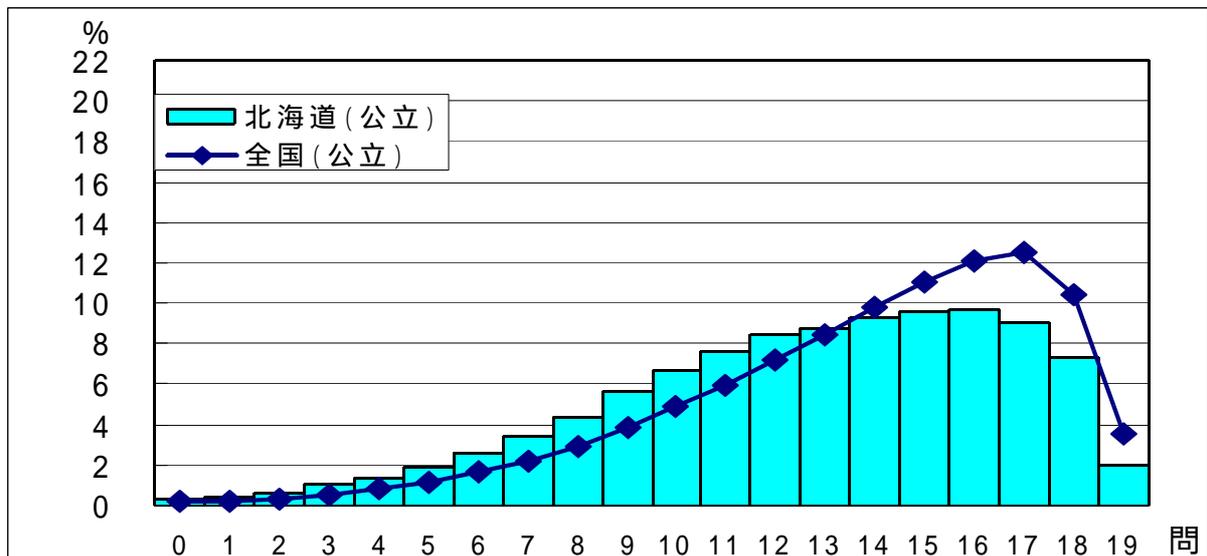
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



[20年度算数 A]

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	47,414人	12.6問/19問	66.4%	13.0問	4.0
全国(公立)	1,147,633人	13.7問/19問	72.2%	14.0問	3.7

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



小学校算数 B

平均正答率が51.5%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題が見られる。

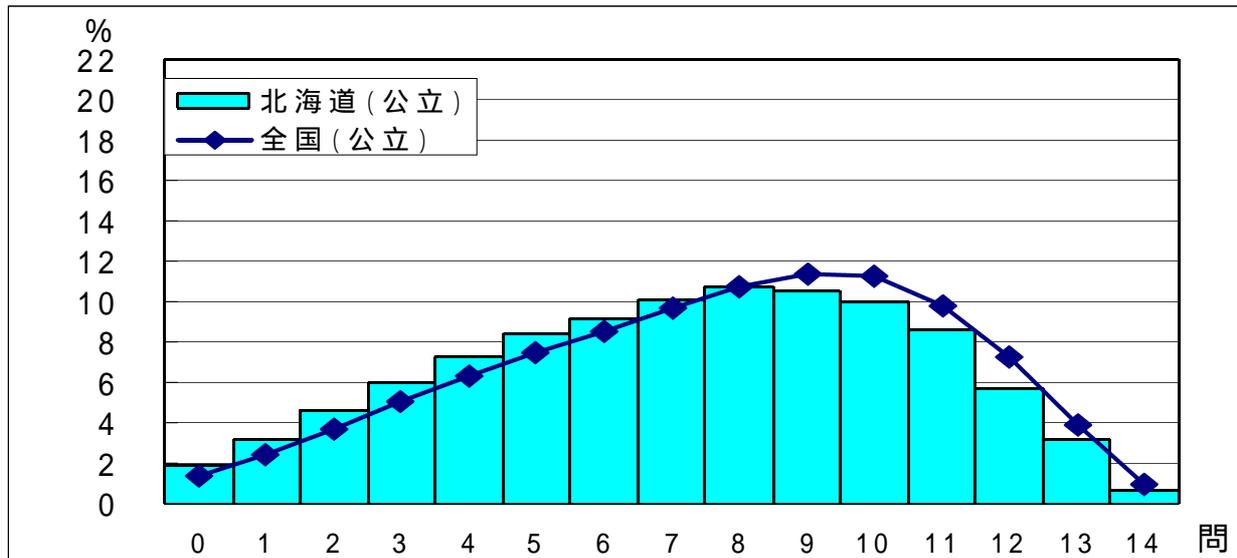
全国と比べて3.3ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(51.5%) H20(47.7%) 全国:H21(54.8%) H20(51.6%)

【平成21年度】算数 B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,899人	7.2問/14問	51.5%	7.0問	3.3
全国(公立)	1,137,624人	7.7問/14問	54.8%	8.0問	3.3

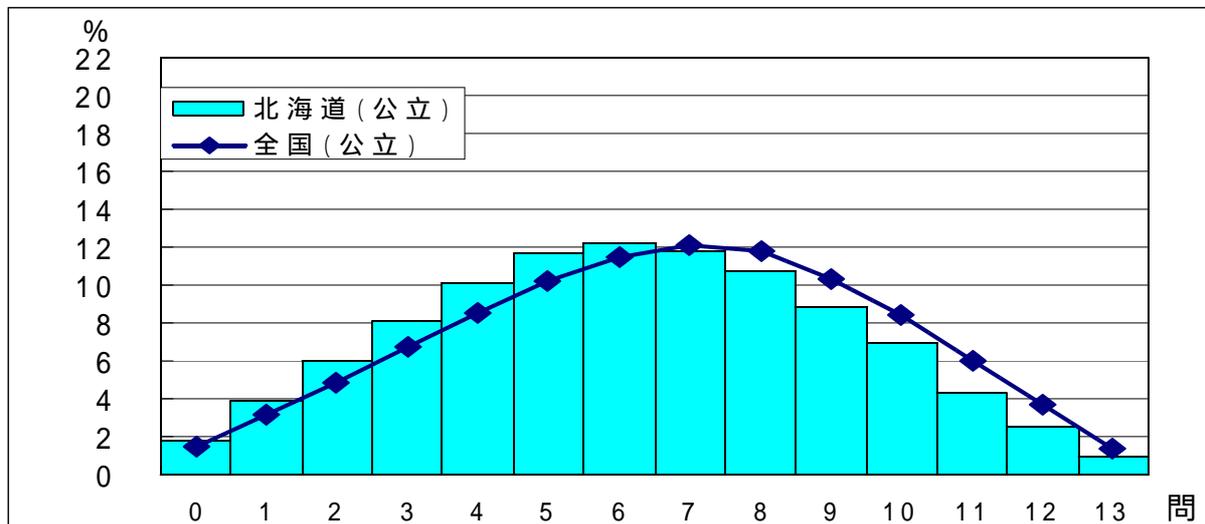
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



[20年度算数 B]

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	47,399人	6.2問/13問	47.7%	6.0問	3.0
全国(公立)	1,147,475人	6.7問/13問	51.6%	7.0問	3.0

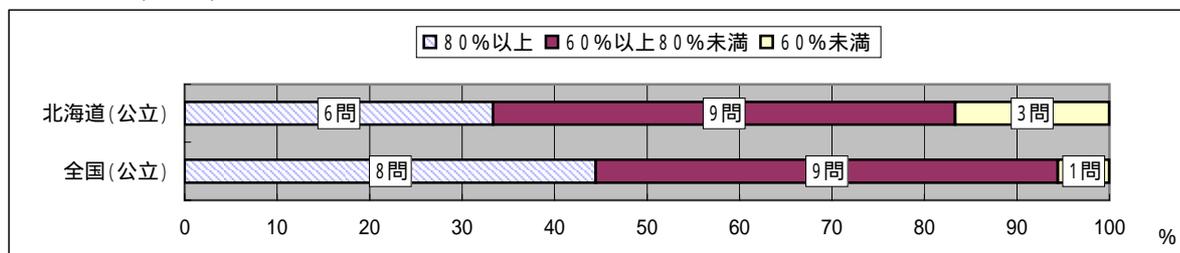
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



設問別の正答率に見る調査結果

算数A(知識)について、正答率80%以上は、18問中6問であり、正答率60%未満は、3問であった。
算数B(活用)について、正答率80%以上は、14問中1問であり、正答率60%未満は、9問であった。

1 算数A(知識)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
1(5)	数と計算	同分母の分数の減法の計算をすることができる	97.1%	97.8%
5(3)	図形	平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解している	90.2%	92.6%

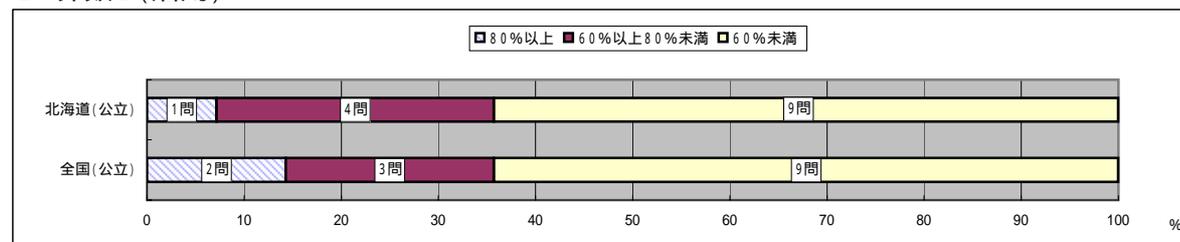
6問中2問を例として掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
6	量と測定	三角形の面積を求めることができる	55.6%	66.9%
7	数量関係	百分率を求めることができる	53.8%	56.9%

3問中2問を例として掲載

2 算数B(活用)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
2(1)	数と計算 量と測定	整数と小数の加法を用いて、重さを求めることができる	88.1%	90.2%

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
1(3)	図形	示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述することができる	25.3%	30.4%
5(3)	数量関係	基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することができる	14.5%	17.7%

9問中2問を例として掲載

中学校国語 A

平均正答率が76.1%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

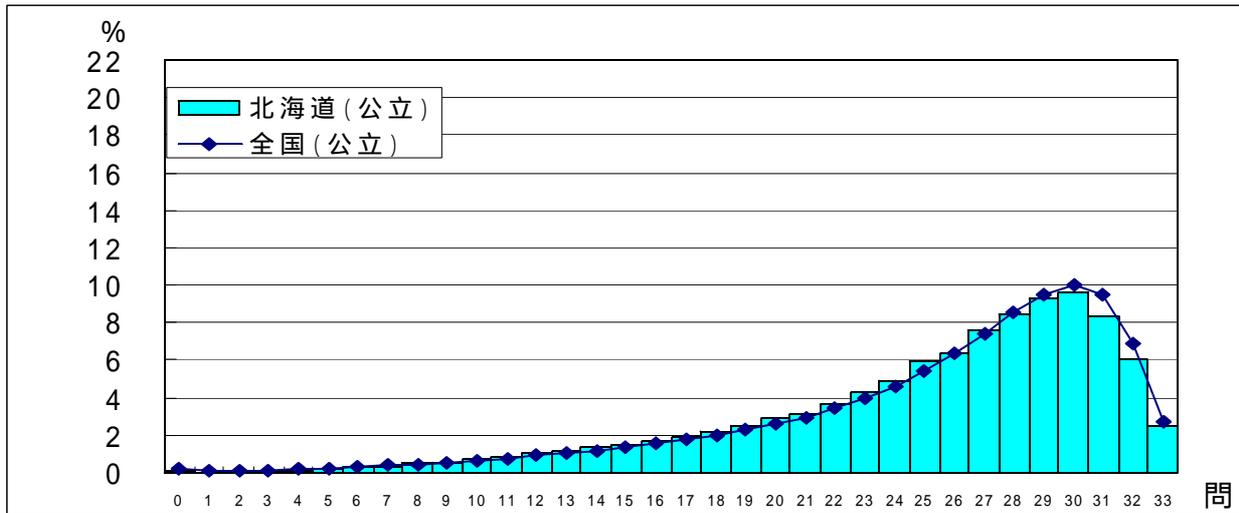
全国と比べて0.9ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(76.1%) H20(72.7%) 全国:H21(77.0%) H20(73.6%)

【平成21年度】国語 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,820人	25.1問/33問	76.1%	27.0問	6.1
全国(公立)	1,033,291人	25.4問/33問	77.0%	27.0問	6.1

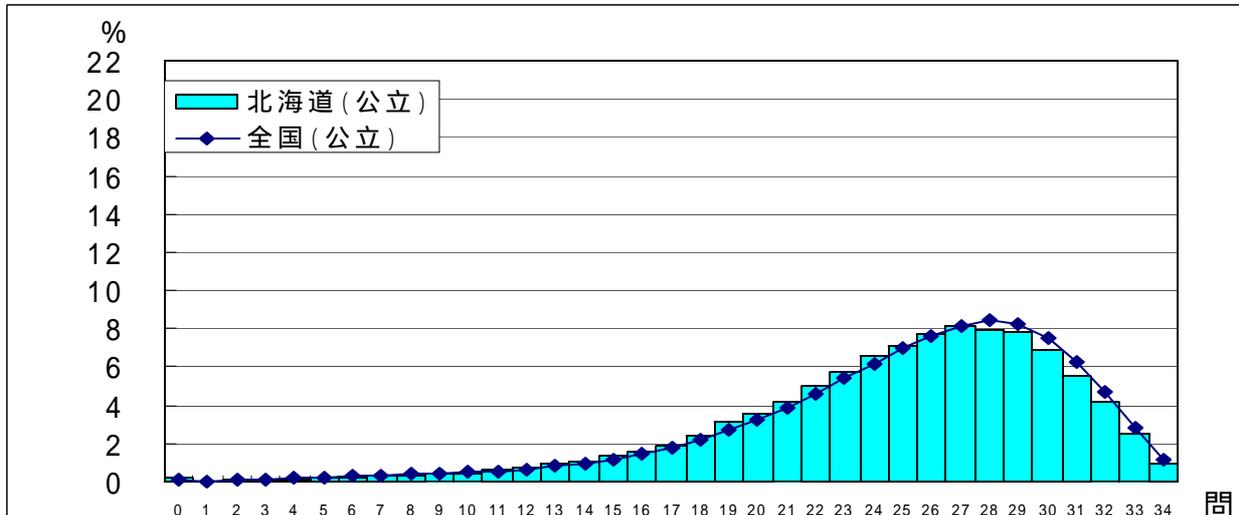
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



[20年度国語 A]

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	46,222人	24.7問/34問	72.7%	26.0問	5.7
全国(公立)	1,029,961人	25.0問/34問	73.6%	26.0問	5.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



中学校国語 B

平均正答率が72.6%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

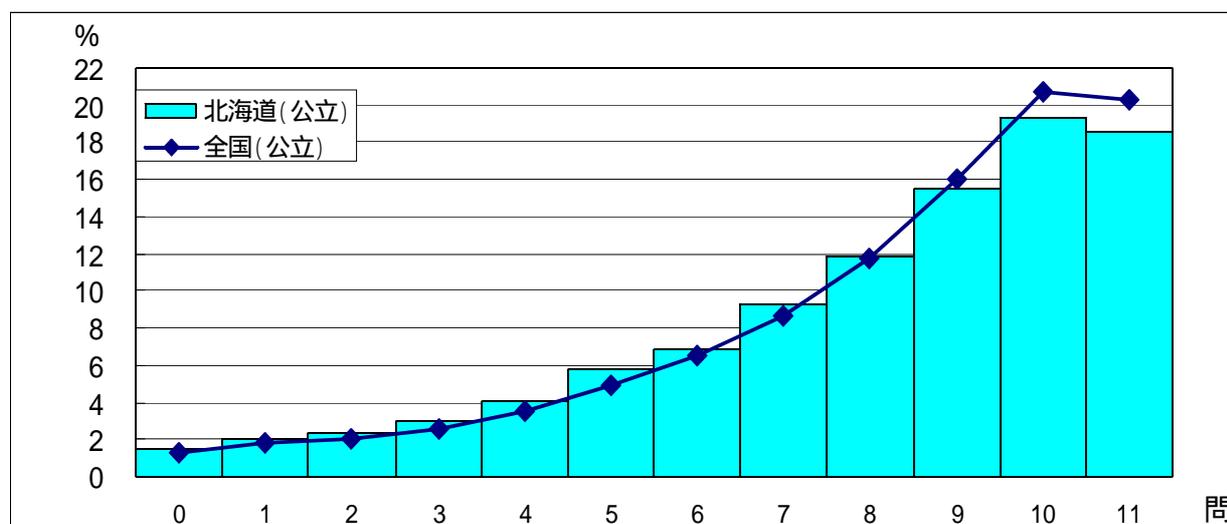
全国と比べて1.9ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(72.6%) H20(59.0%) 全国:H21(74.5%) H20(60.8%)

【平成21年度】国語 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,840人	8.0問/11問	72.6%	9.0問	2.8
全国(公立)	1,033,703人	8.2問/11問	74.5%	9.0問	2.7

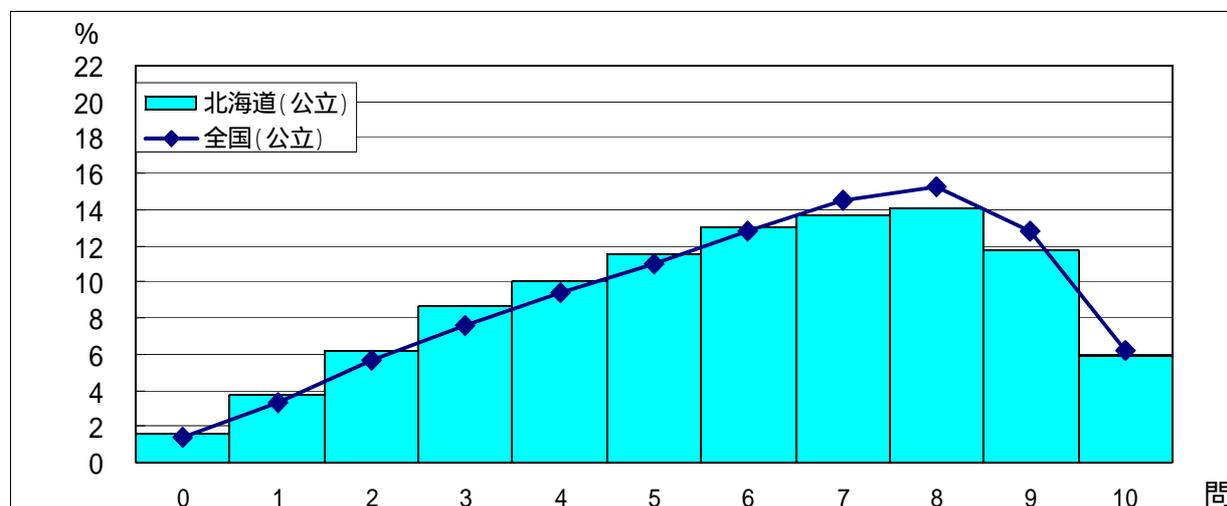
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



[20年度国語 B]

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	46,135人	5.9問/10問	59.0%	6.0問	2.6
全国(公立)	1,030,260人	6.1問/10問	60.8%	6.0問	2.5

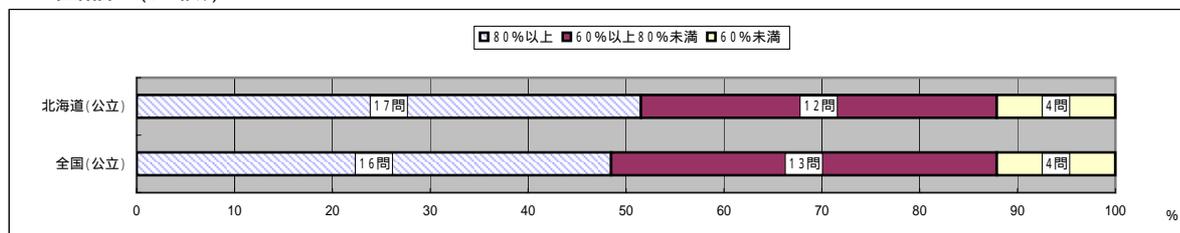
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



設問別の正答率に見る調査結果

国語A(知識)について、正答率80%以上は、33問中17問であり、正答率60%未満は、4問であった。
 国語B(活用)について、正答率80%以上は、11問中2問であり、正答率60%未満は、1問であった。

1 国語A(知識)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
4一	話すこと・聞くこと	話の内容から必要な情報を的確に聞き取る	90.8%	92.7%
8三才	言語事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	92.2%	92.2%

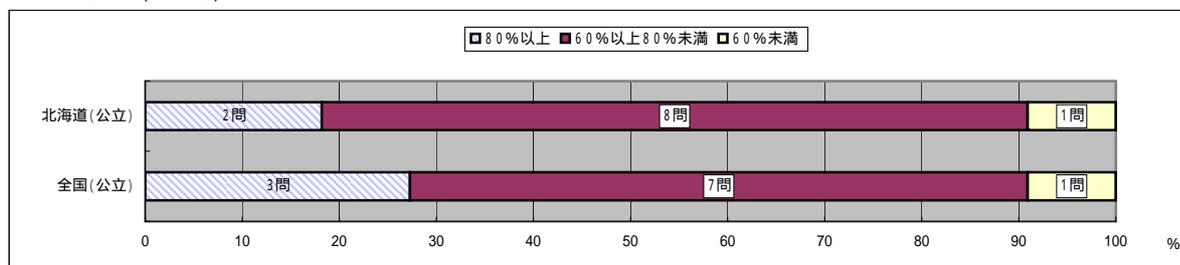
17問中2問を例として掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
7一	読むこと	短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ	33.7%	28.9%

4問中1問を例として掲載

2 国語B(活用)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
3一A	読むこと	語句に注意し、その効果的な使い方に気付く	90.9%	91.4%

2問中1問を例として掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
1三ア	書くこと 読むこと	資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる	54.2%	59.1%

中学校数学 A

平均正答率が61.1%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

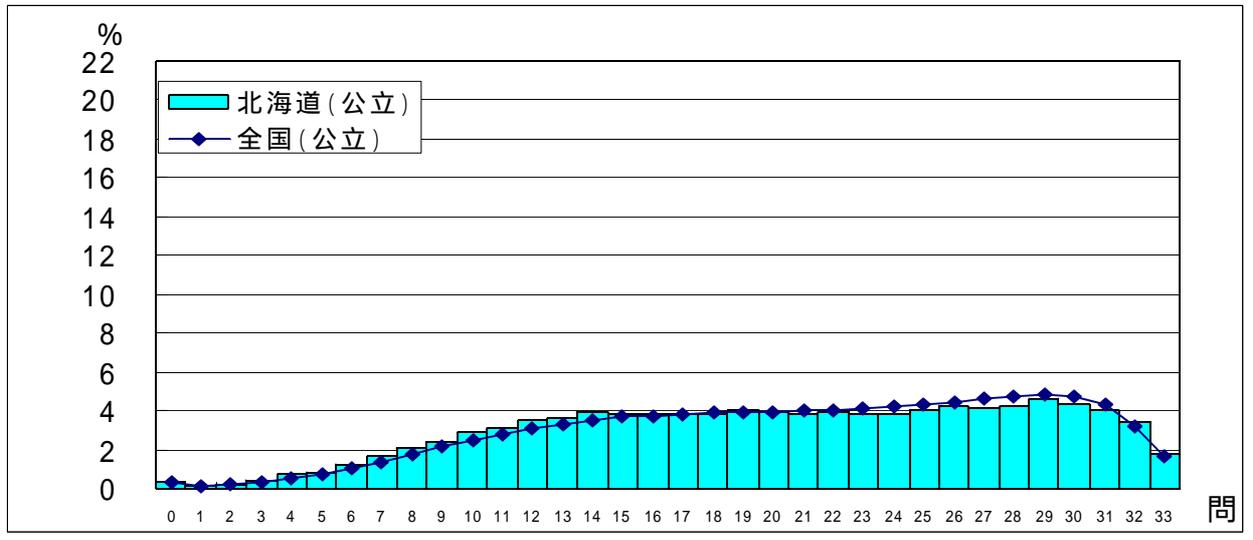
全国と比べて1.6ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(61.1%) H20(60.3%) 全国:H21(62.7%) H20(63.1%)

【平成21年度】数学 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,825人	20.1問/33問	61.1%	20.0問	7.8
全国(公立)	1,033,885人	20.7問/33問	62.7%	21.0問	7.6

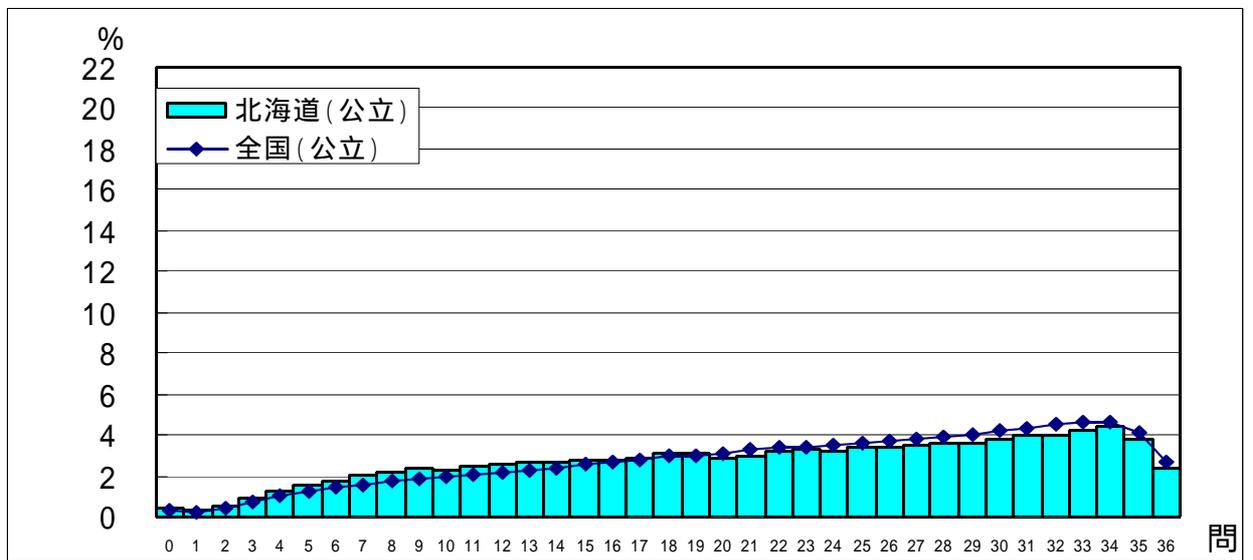
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



[20年度数学 A]

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	46,111人	21.7問/36問	60.3%	23.0問	9.4
全国(公立)	1,030,425人	22.7問/36問	63.1%	24.0問	9.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



中学校数学 B

平均正答率が55.4%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題が見られる。

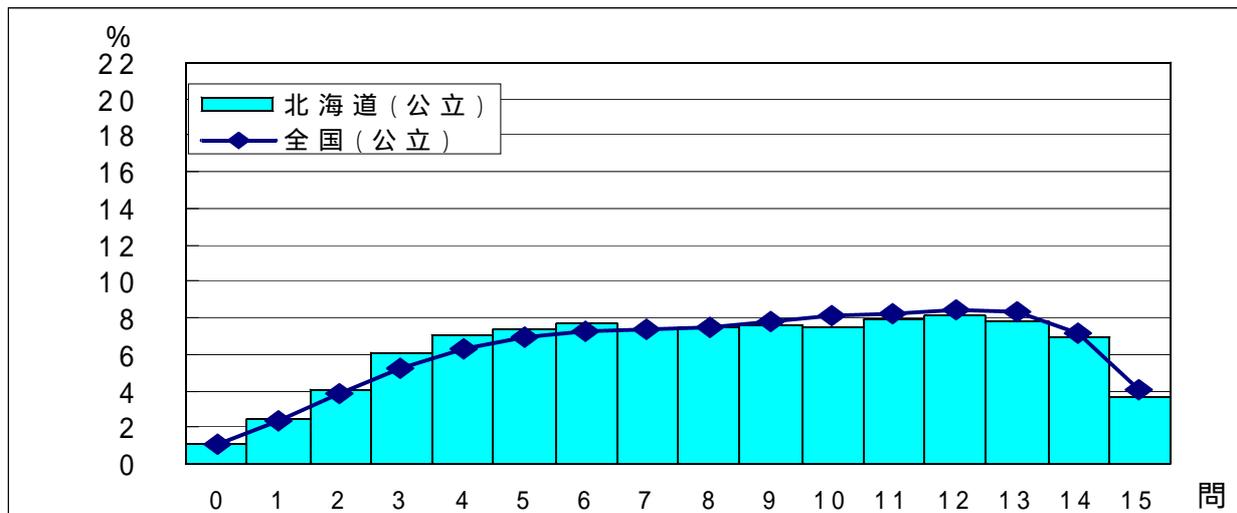
全国と比べて1.5ポイント低い。

(平均正答率) 道:H21(55.4%) H20(45.9%) 全国:H21(56.9%) H20(49.2%)

【平成21年度】数学 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,792人	8.3問/15問	55.4%	8.0問	3.9
全国(公立)	1,033,909人	8.5問/15問	56.9%	9.0問	3.9

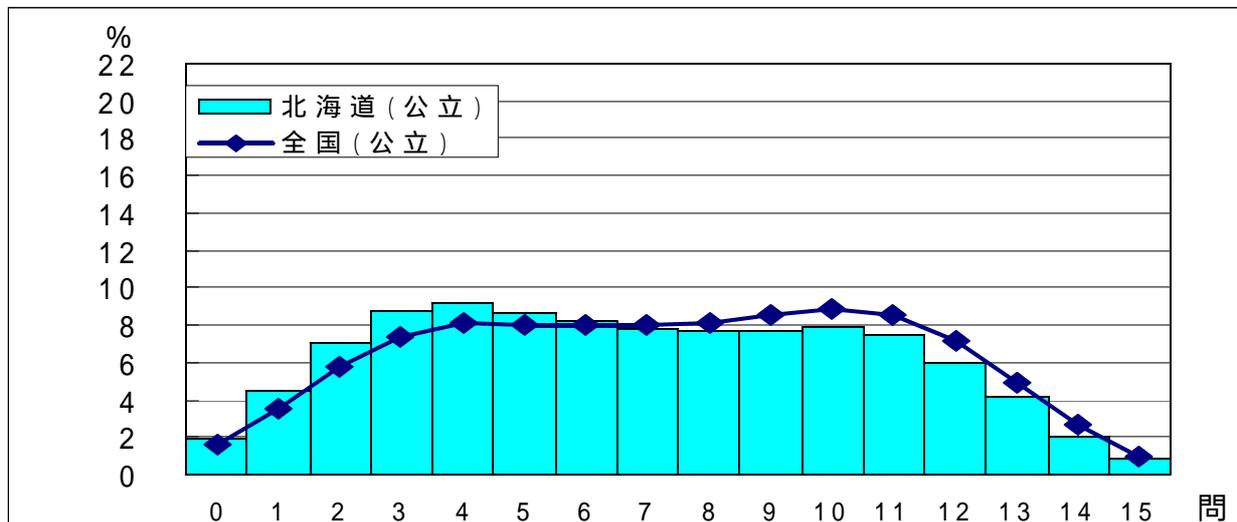
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



[20年度数学 B]

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	46,087人	6.9問/15問	45.9%	7.0問	3.7
全国(公立)	1,030,521人	7.4問/15問	49.2%	7.0問	3.7

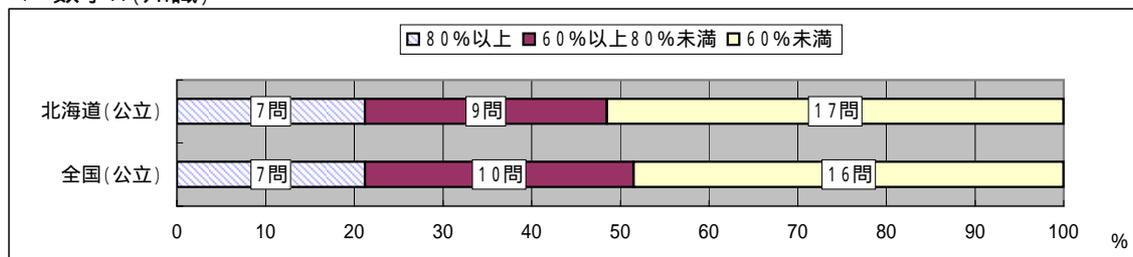
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:生徒の割合)



設問別の正答率に見る調査結果

数学A(知識)について、正答率80%以上は、33問中7問であり、正答率60%未満は、17問であった。
 数学B(活用)について、正答率80%以上は、15問中2問であり、正答率60%未満は、10問であった。

1 数学A(知識)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
2(1)	数と式	単項式どうしの乗法の計算をすることができる	89.2%	91.0%
5(1)	図形	展開図で示された空間図形について、2つの面の位置関係(面と面の平行)をとらえることができる	95.1%	95.4%

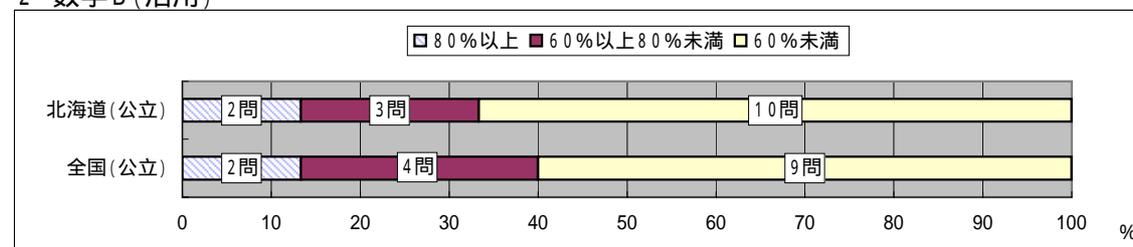
7問中2問を例として掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
8	図形	証明の意義について理解している	29.4%	28.9%
11(2)	数量関係	具体的な事象から、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる	51.6%	55.6%

17問中2問を例として掲載

2 数学B(活用)



< 正答率80%以上の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
1(1)	図形	事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確にとらえることができる	85.0%	85.3%
2(1)	数と式	問題場面における考察の対象を明確にとらえている	84.3%	85.6%

2問中2問を掲載

< 正答率60%未満の設問 >

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率
4(1)	図形	方針にもとづいて証明することができる	39.5%	41.0%
5(3)	数量関係	不確かな事象についての予想を実験で確かめるための方法を考えることができる	47.2%	47.5%

10問中2問を例として掲載

平成20年度調査と関連する設問の状況

本調査の設問に関連のある平成20年度調査における設問を掲載し、各年度の正答率の状況を北海道及び全国と比較しています。関連する設問の抽出に当たっては、「平成21年度全国学力・学習状況調査解説資料」(文部科学省)を参考としています。

< 小学校算数 >

(平成21年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		北海道(公立)	全国(公立)	正答率の差
A1(2)	725 × 8を計算する	82.2	85.6	-3.4
A1(4)	48.1 ÷ 1.3を計算する	73.4	80.4	-7.0
A1(6)	80 - 30 ÷ 5を計算する	55.8	66.8	-11.0
A3	千円札を長方形とみると、長い方の辺はどれくらいの長さか選ぶ	84.6	89.8	-5.2
A5(2)	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ	77.8	83.4	-5.6
A7	200人のうち80人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ	53.8	56.9	-3.1
B3(3)	2種類の品物を買うとき、与えられた条件では、ハンカチを買うともう1種類の品物を買えないわけを書く	32.5	33.9	-1.4
B5(3)	4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く	14.5	17.7	-3.2

(平成20年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		北海道(公立)	全国(公立)	正答率の差
A1(2)	52 × 41を計算する	83.3	86.5	-3.2
A1(4)	68.4 ÷ 36を計算する	69.0	76.2	-7.2
A1(5)	3 + 2 × 4を計算する	60.1	70.9	-10.8
A6	面積が約150cm ² であるものを選ぶ	14.3	17.7	-3.4
A8(2)	ひし形を2本の対角線で切った時にできる三角形の名前を答える	51.6	64.1	-12.5
A9(2)	620冊の本の40%の冊数を求める式と答えを書く	41.6	54.9	-13.3
B1(2)	どの2つの戸棚を選んで置いても、ドアを開け閉めすると、ドアが戸棚に当たってしまうわけを書く	25.4	30.1	-4.7
B2(3)	米の生産額について、「割合が減っているから、生産額は減っている」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	13.3	17.3	-4.0

「数と計算」においては、どちらの年度も、全国と比べて、正答率の差が5ポイント以内の設問が2問、5ポイント以上の設問が2問となり、2年間にわたって同様の傾向が見られる。
 「数量関係」においては、全国と比べて、正答率の差が5ポイント以内の設問が平成21年度で2問、平成20年度で1問となり、2年間にわたって同様の傾向が見られる。

< 中学校数学 >

(平成21年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		北海道(公立)	全国(公立)	正答率の差
A1(2)	$(-3)^2$ と同じ計算を表している	70.2	75.7	-5.5
A2(4)	$S = 1/2ah$ を、aについて解く	39.9	44.5	-4.6
A3(3)	一元一次方程式をつくるために、着目する数量を答える	33.4	34.9	-1.5
A7(2)	底角が等しいことを記号を用いて表す	67.7	69.5	-1.8
A8	三角形の内角の和が180°であることの証明について正しいものを選ぶ	29.4	28.9	0.5

(平成20年度)

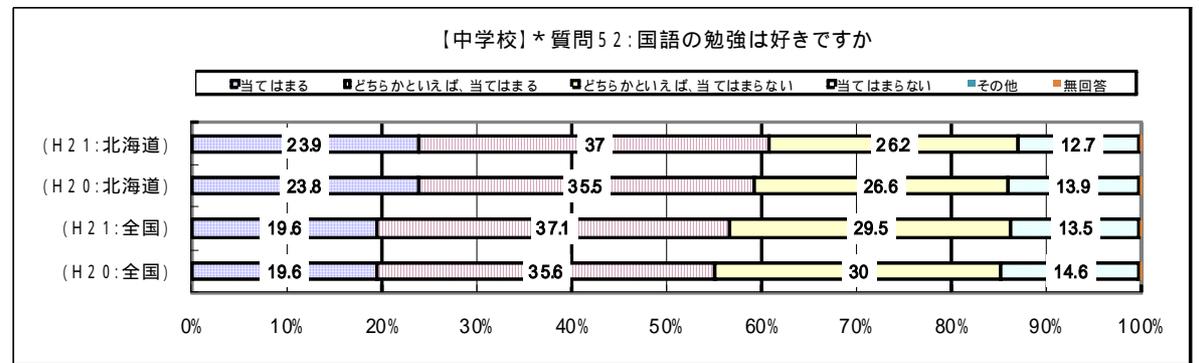
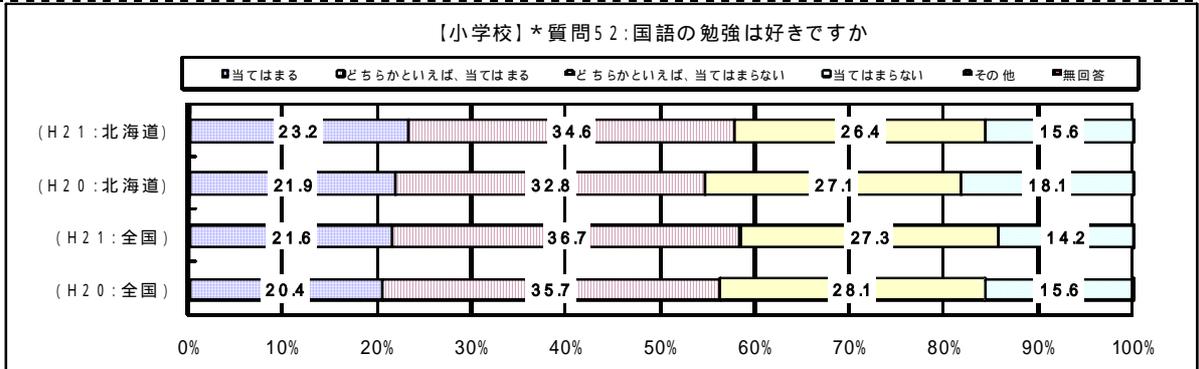
設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		北海道(公立)	全国(公立)	正答率の差
A1(3)	$2 \times (-3)^2$ を計算する	64.0	71.4	-7.4
A2(4)	$x + 2y = 6$ をyについて解く	53.1	53.9	-0.8
A3(3)	数量の関係を一元一次方程式で表す	55.2	59.6	-4.4
A7	平行四辺形になるための条件を、記号を用いて表す	51.9	57.3	-5.4
A8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	55.8	57.6	-1.8

「数と式」においては、どちらの年度も、全国と比べて、正答率の差が5ポイント以内の設問が2問、5ポイント以上の設問が1問となり、2年間にわたって同様の傾向が見られる。
 「図形」においては、全国と比べて、正答率の差が5ポイント以内の設問が平成21年度で2問、平成20年度で1問となり、2年間にわたって同様の傾向が見られる。

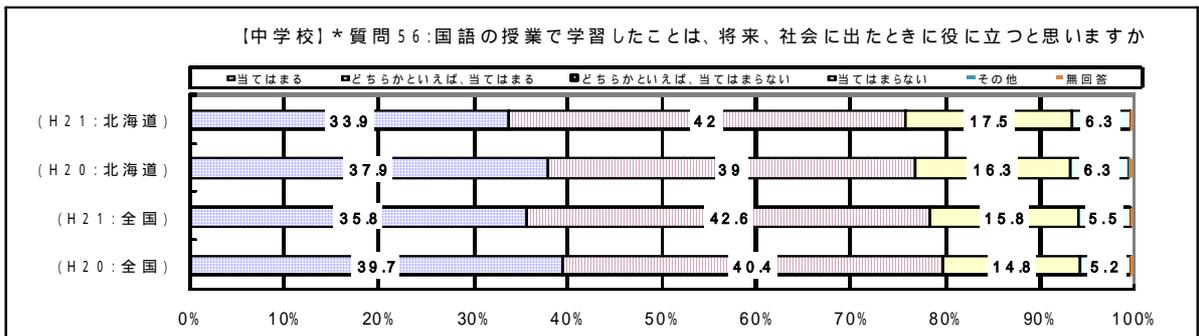
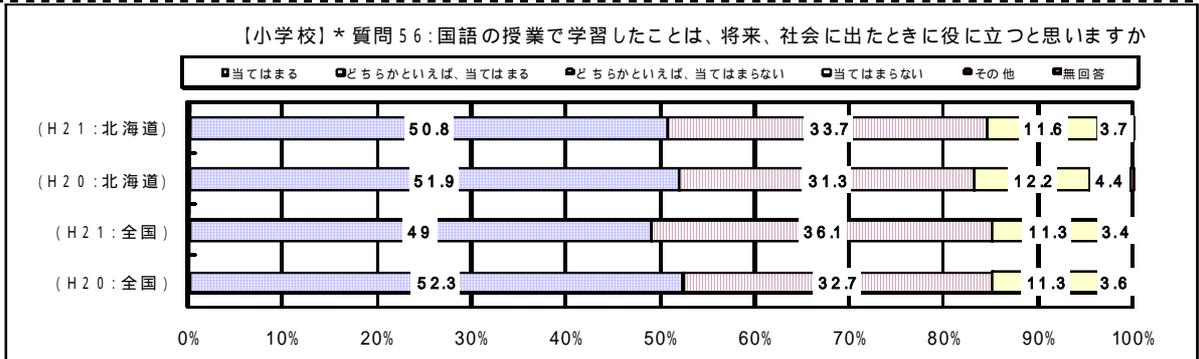
児童生徒質問紙

< 学習に対する関心・意欲・態度 >

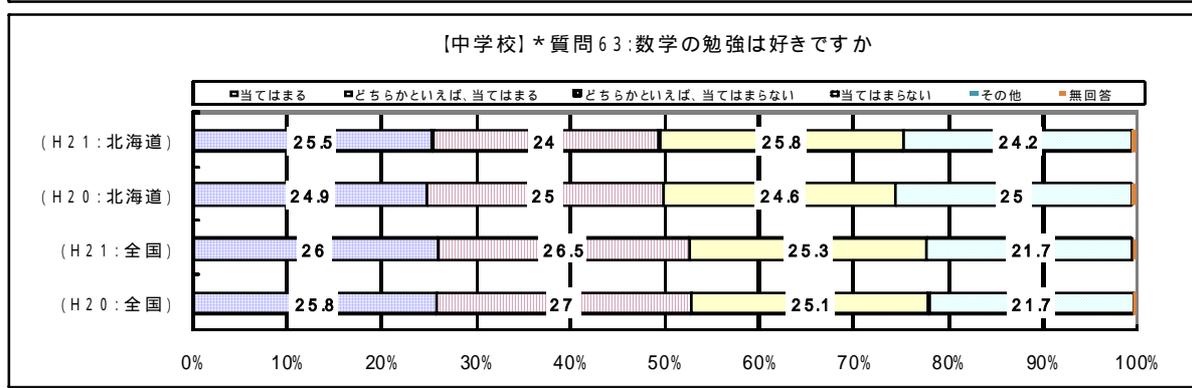
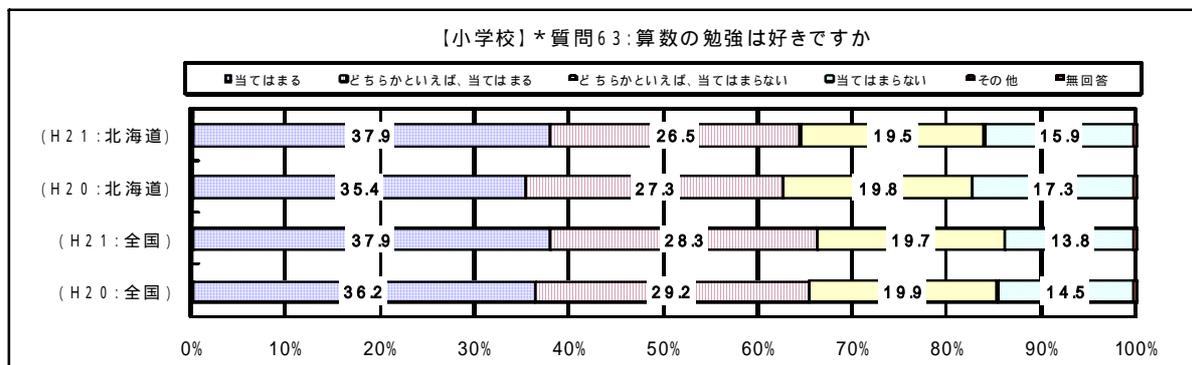
国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度よりも若干高く、中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては4.2ポイント高い。



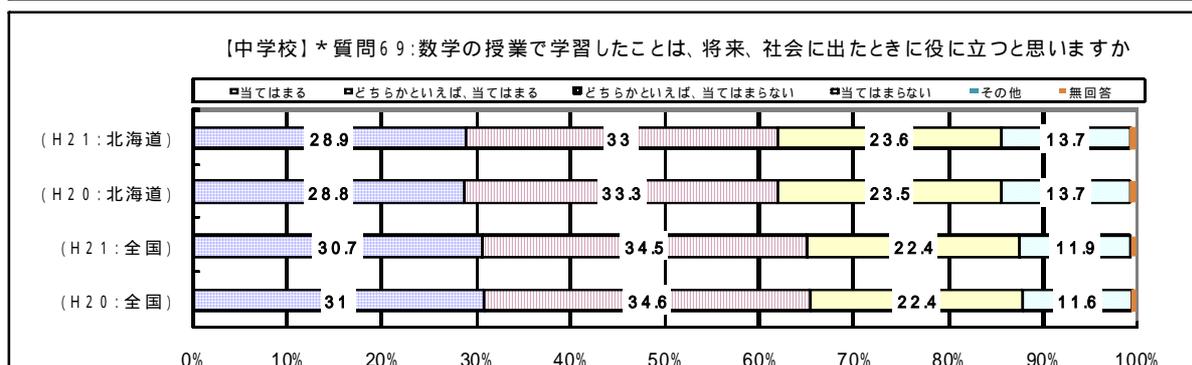
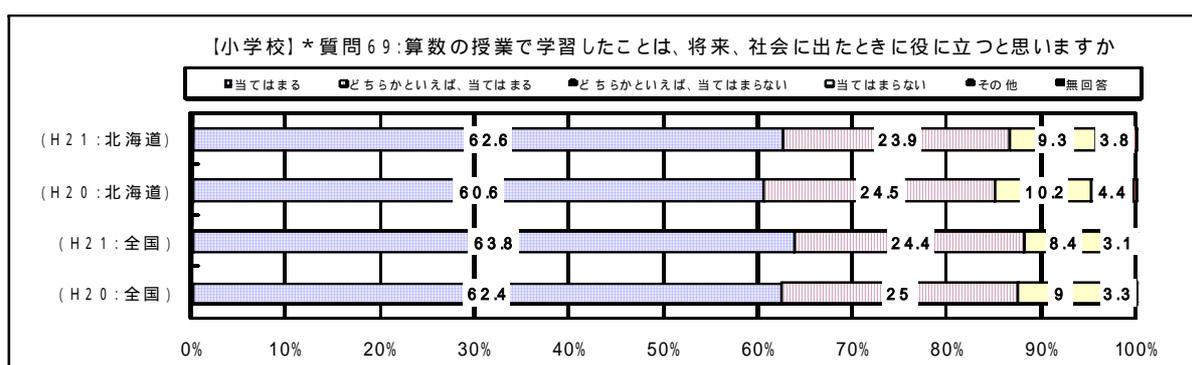
国語の勉強が役に立つと思う児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査は同様の傾向であり、中学校調査においては3ポイント低い。

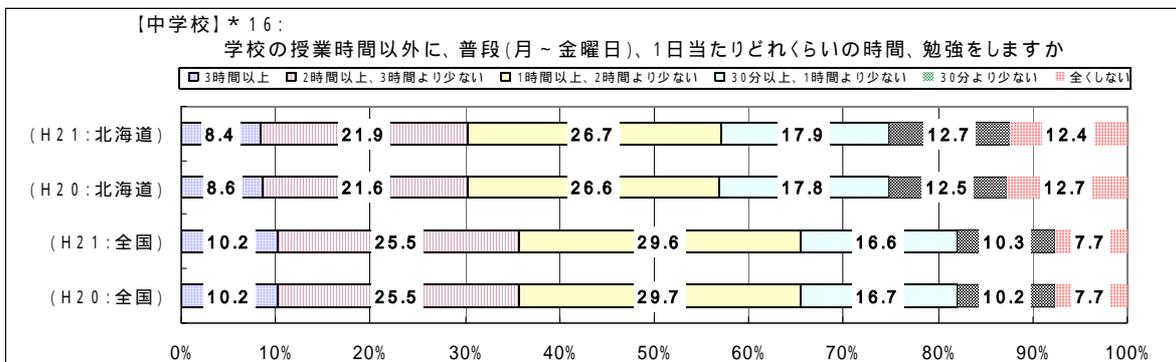
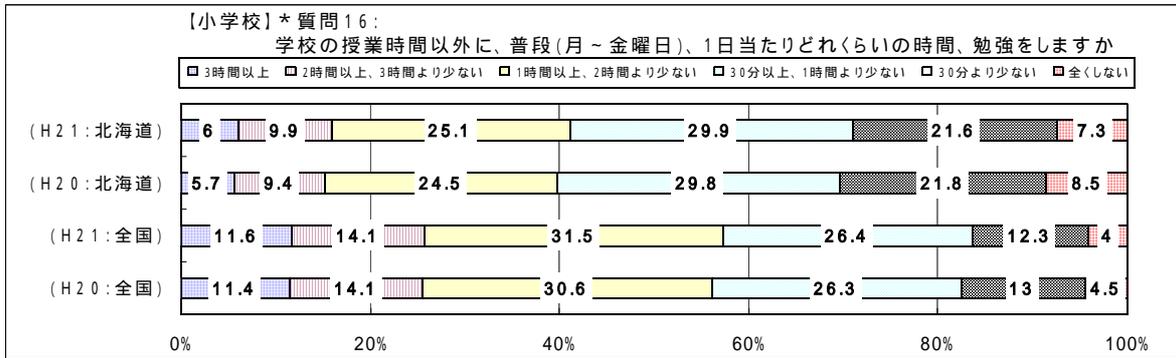


算数・数学の勉強が役に立つと思う児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては3.3ポイント低い。

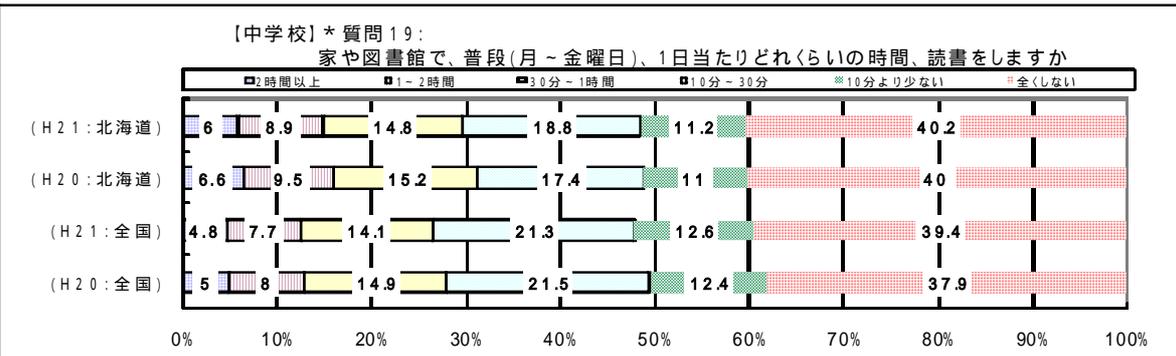
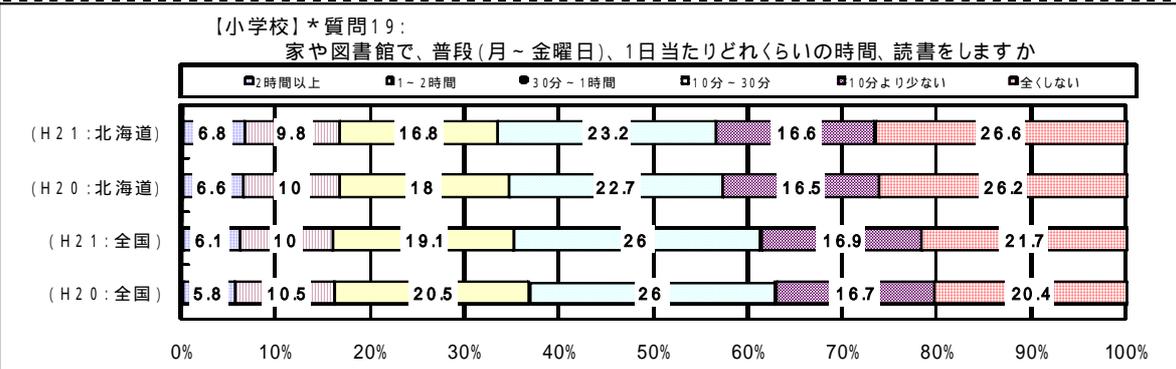


< 学習時間等 >

1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては16.2ポイント、中学校調査においては8.3ポイント低い。



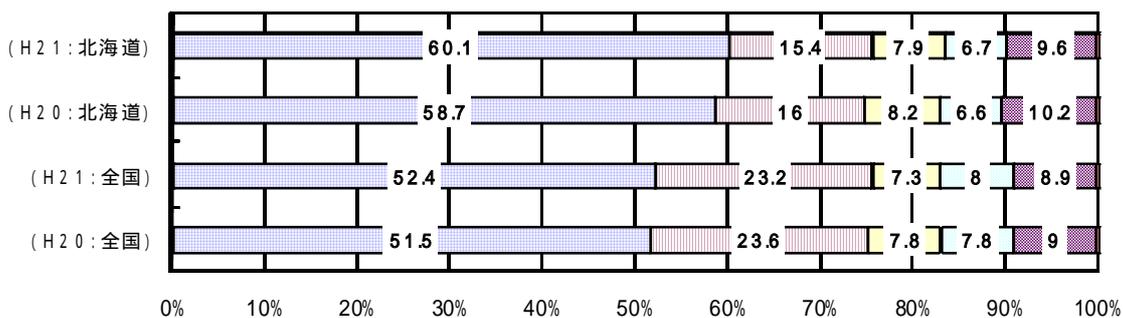
1日に10分以上読書をする児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては4.6ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



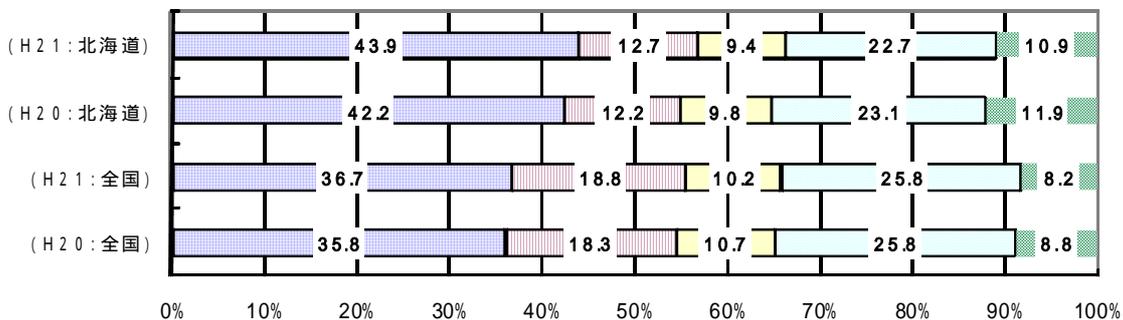
< 学習塾 >

学習塾(家庭教師を含む)で勉強している児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては7.8ポイント、中学校調査においては7.3ポイント低い。

【小学校】*質問18:学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか

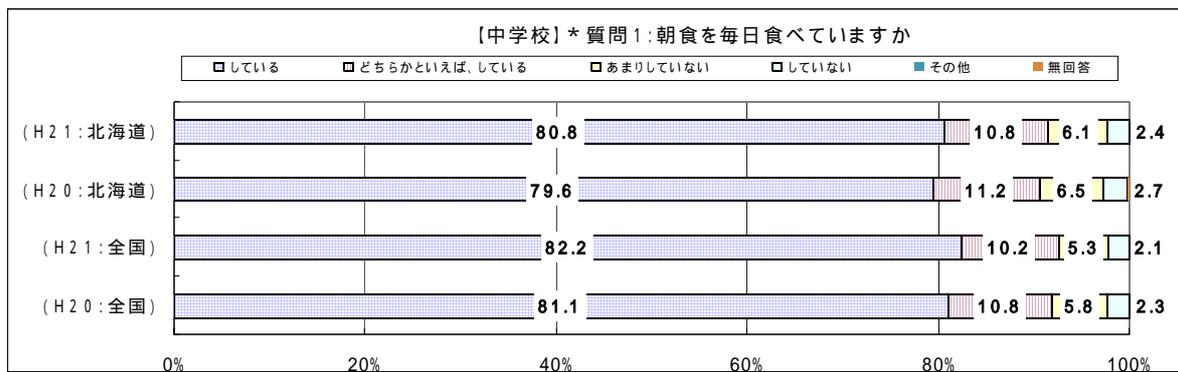
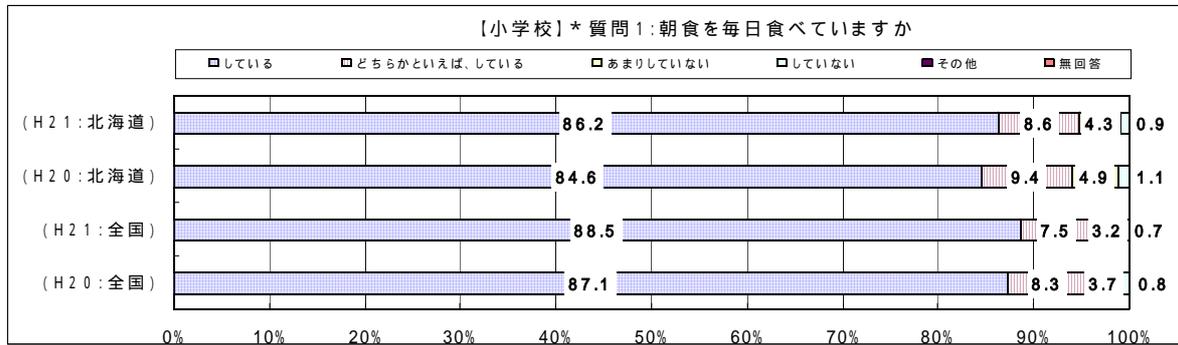


【中学校】*質問18:学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか

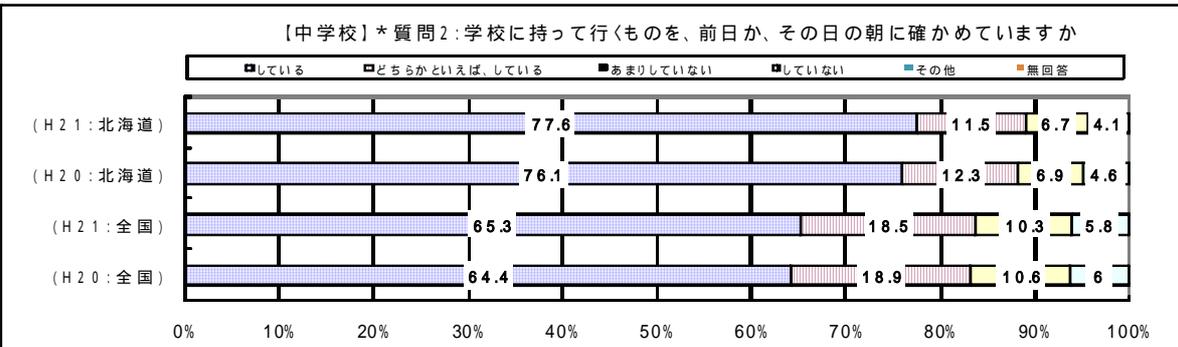
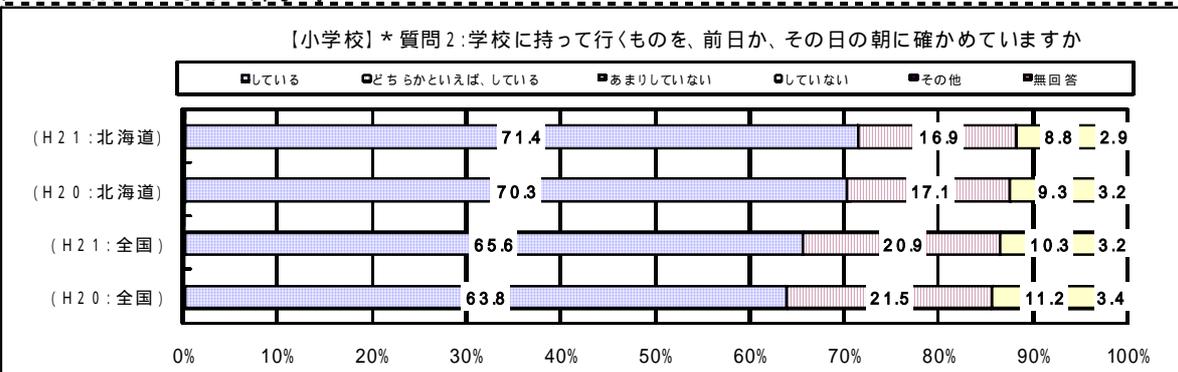


< 基本的生活習慣 >

朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

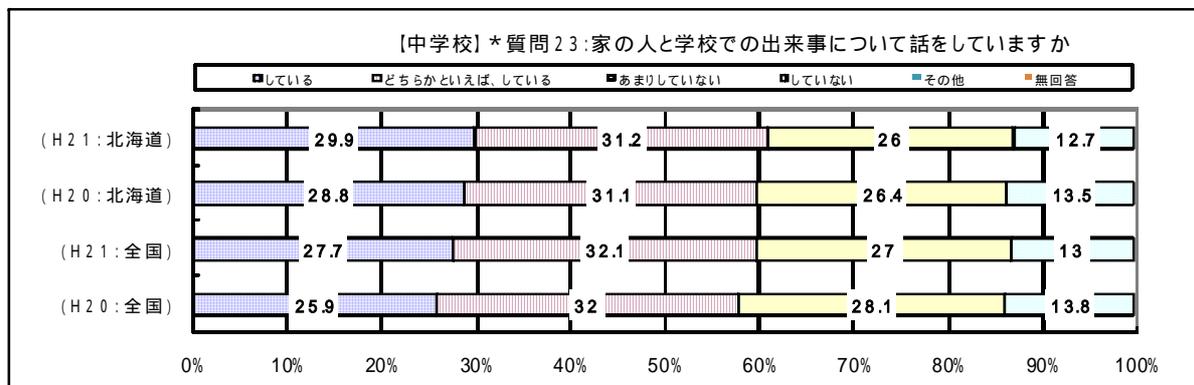
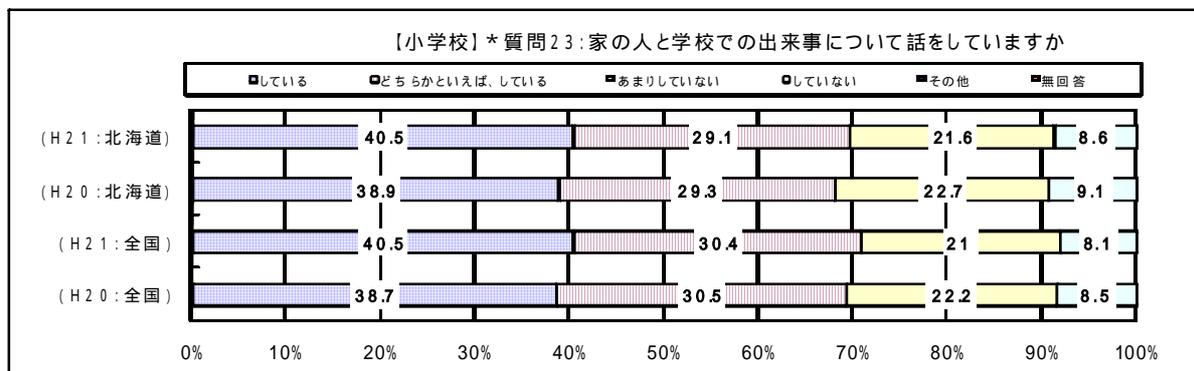


学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては5.3ポイント高い。



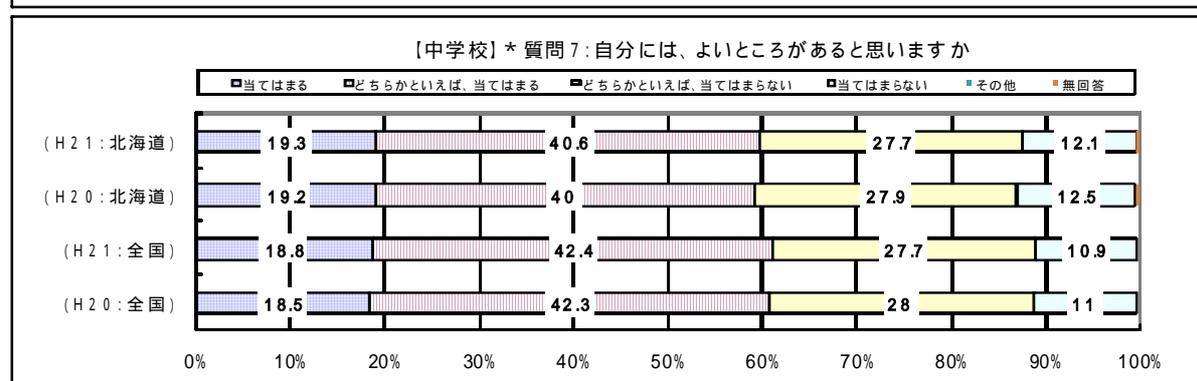
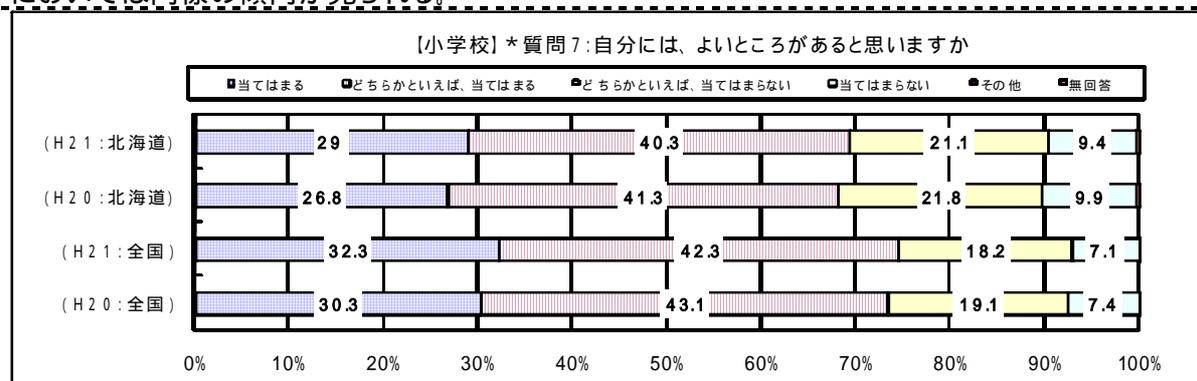
< 家庭でのコミュニケーション >

家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

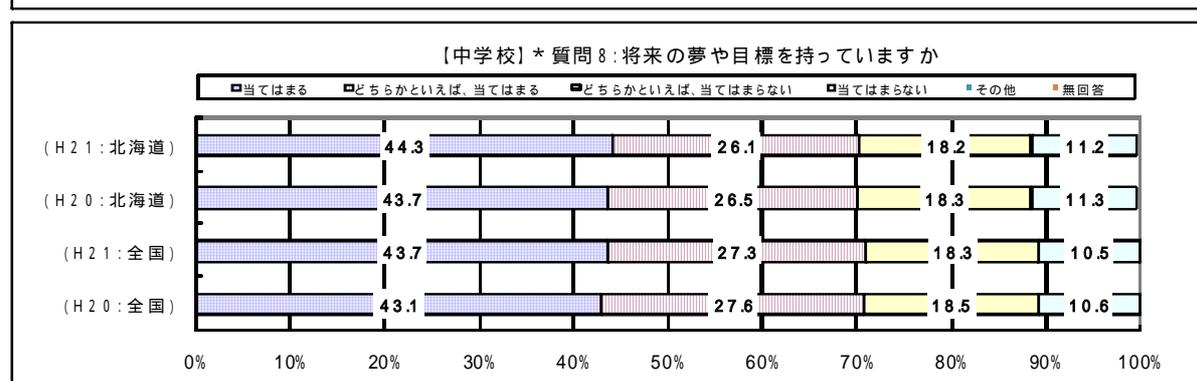
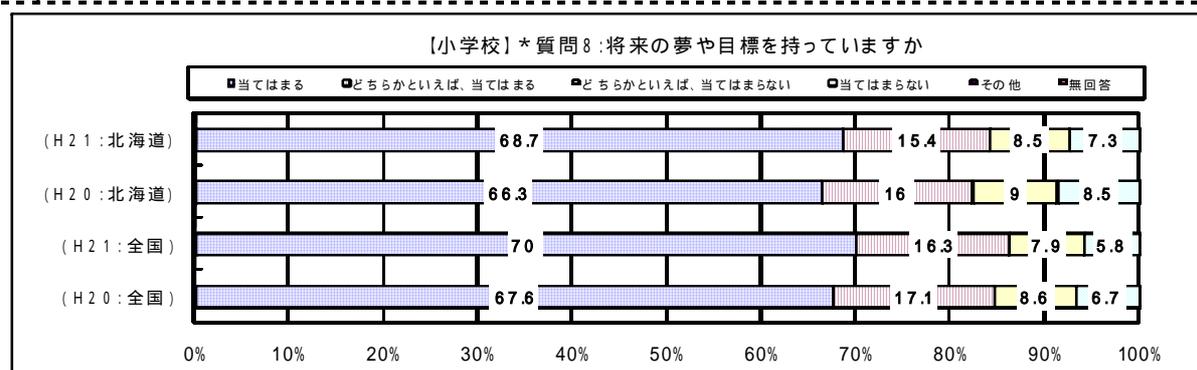


< 自尊意識・規範意識等 >

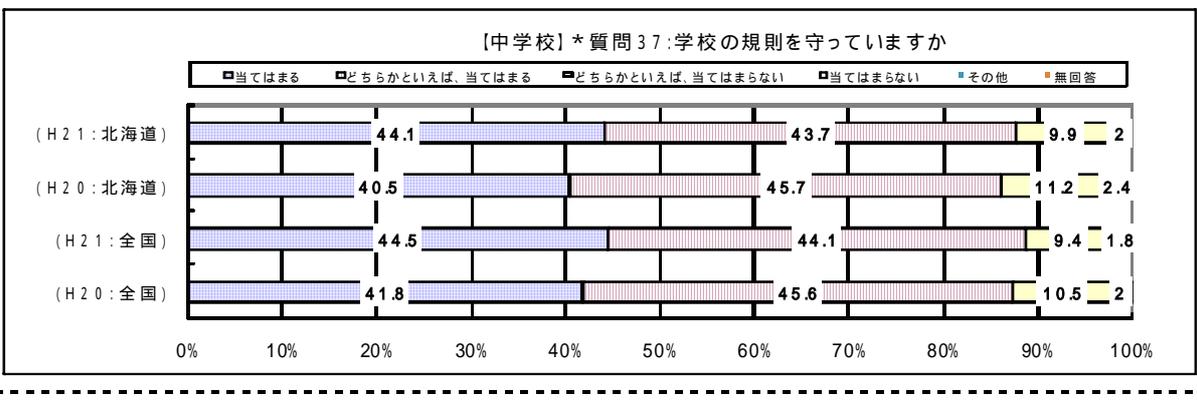
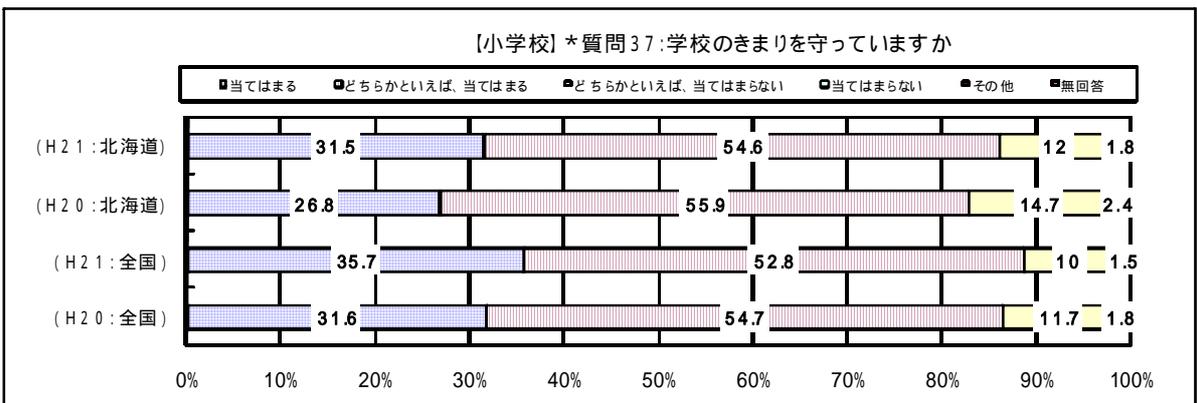
自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては5.3ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



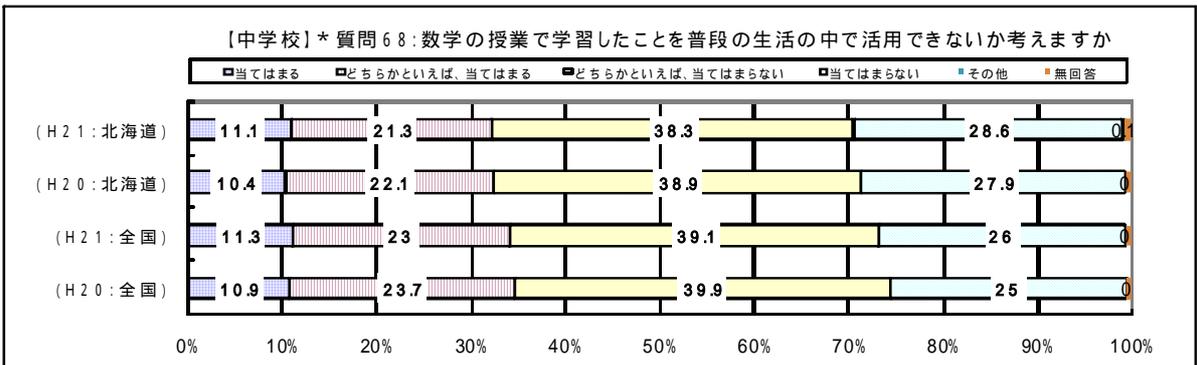
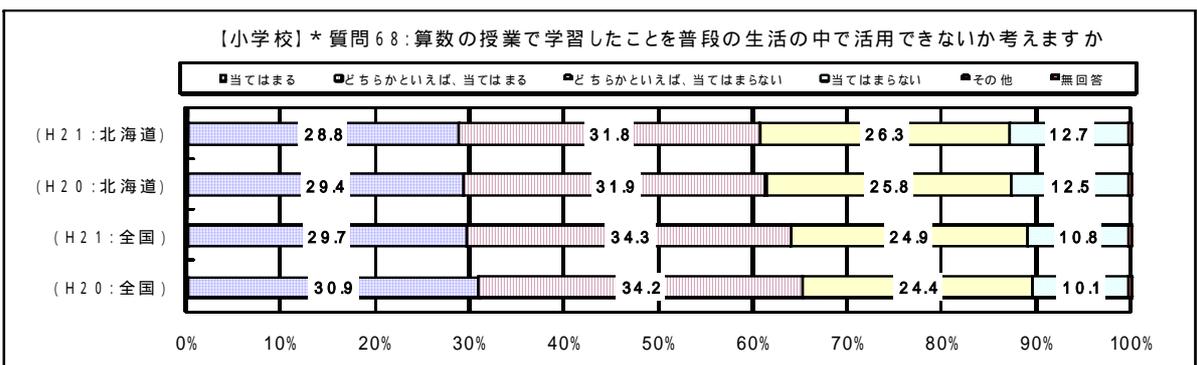
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



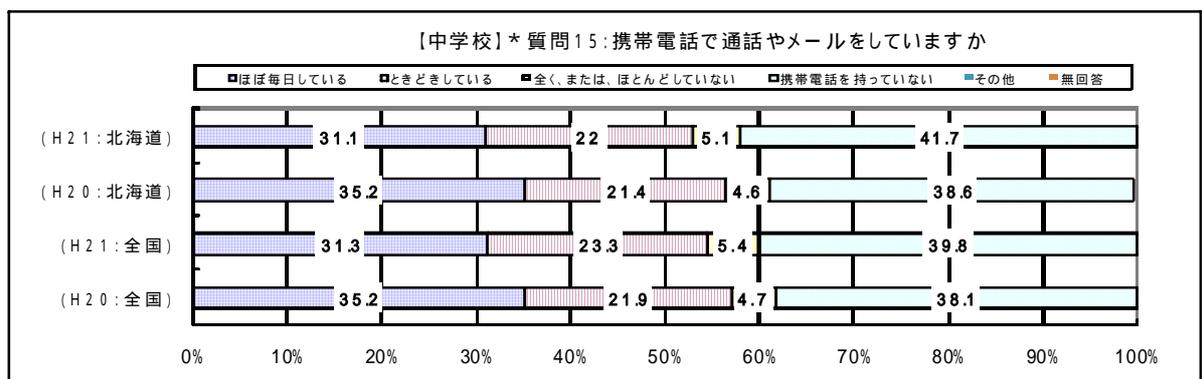
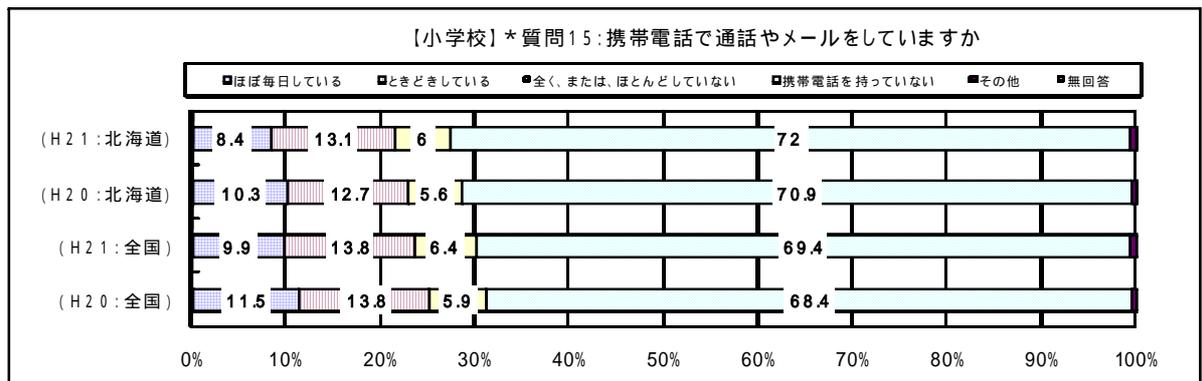
学校のきまり・規則を守っている児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度よりも若干高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



算数（数学）の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.4ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



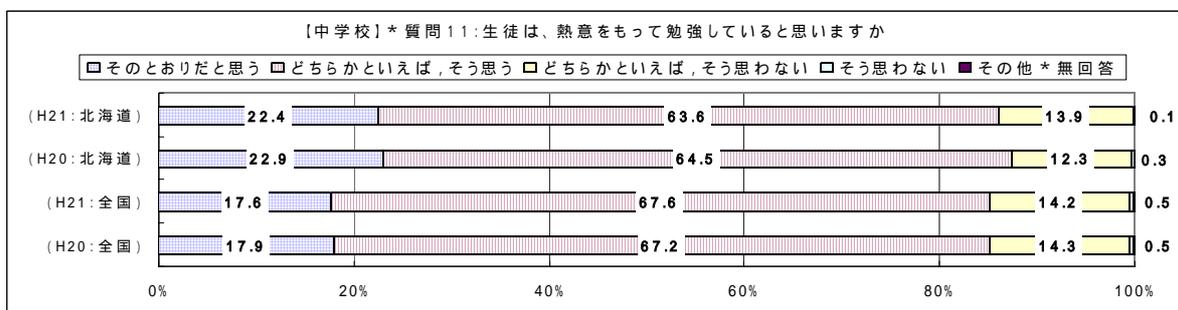
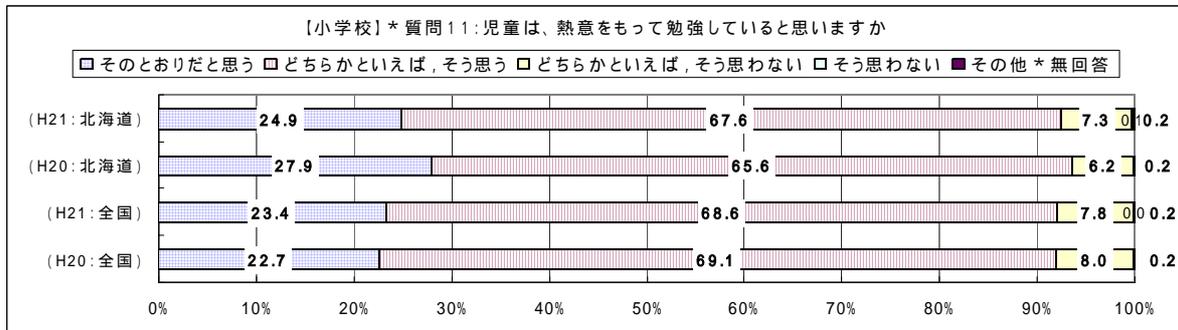
携帯電話で通話やメールをしている児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査において昨年度よりも若干低い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



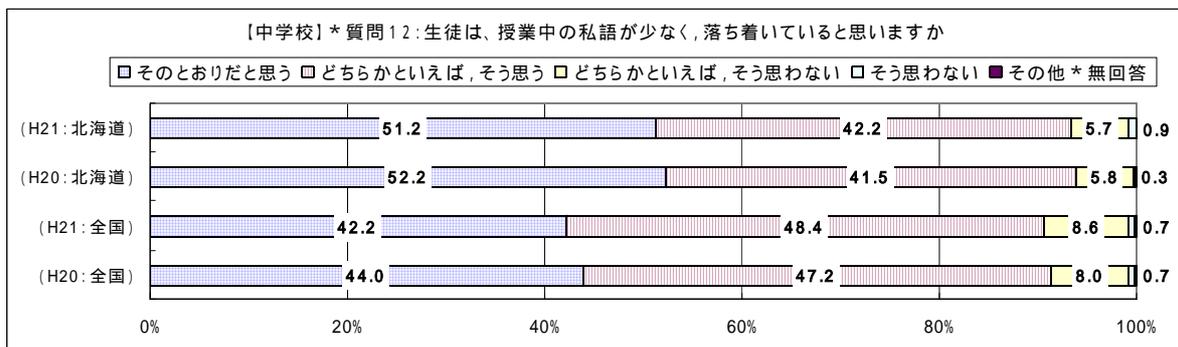
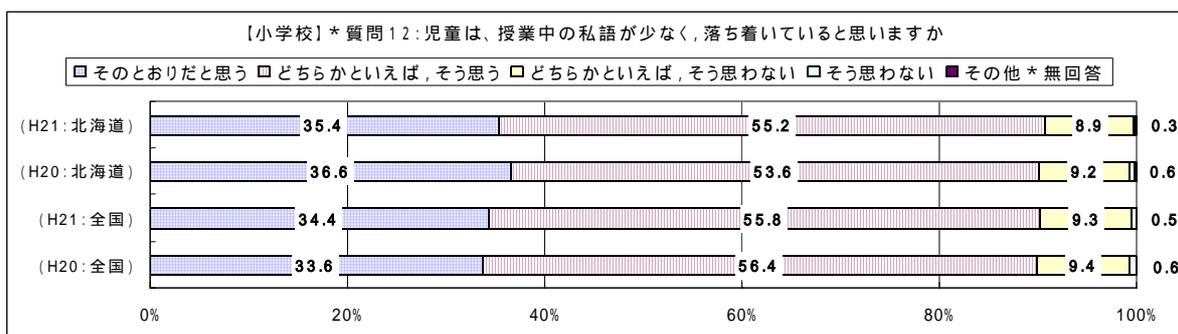
学校質問紙

< 学習態度 >

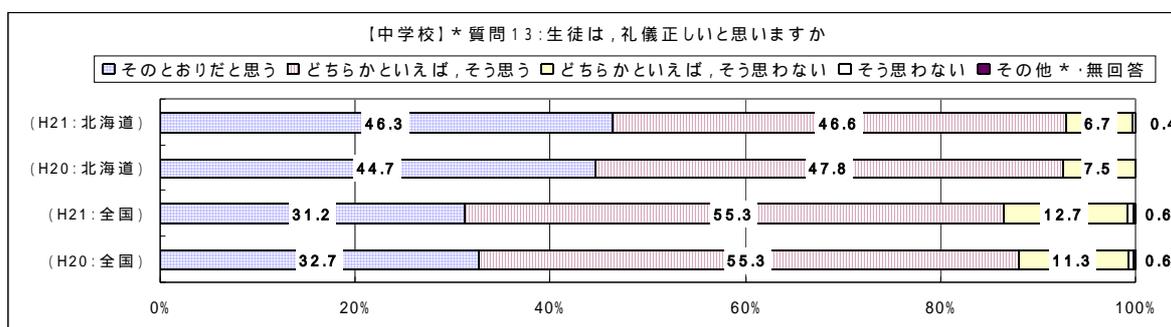
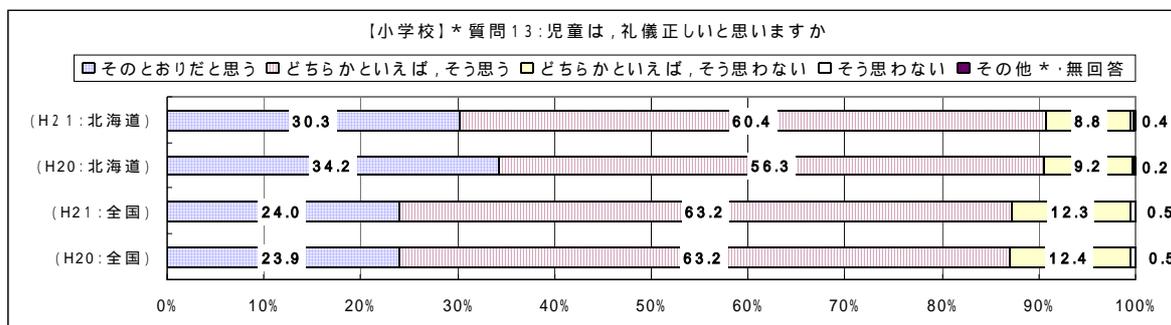
児童生徒が熱意をもって勉強していると思っている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

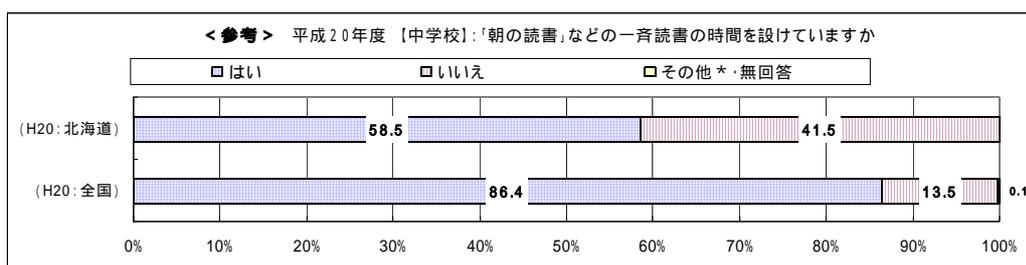
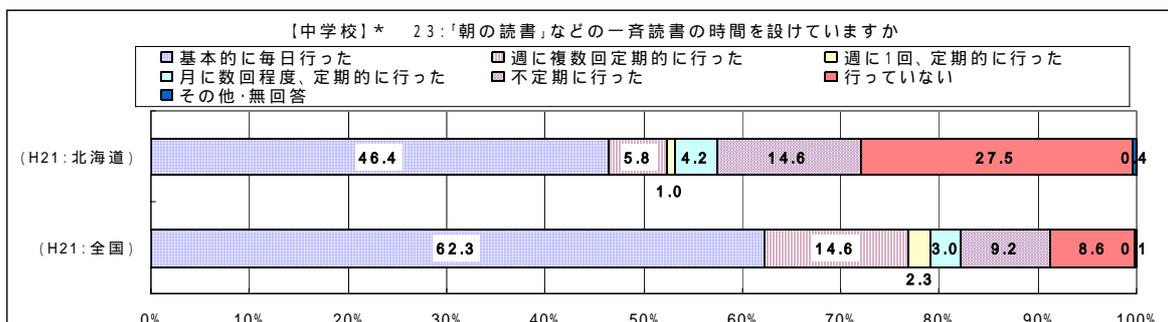
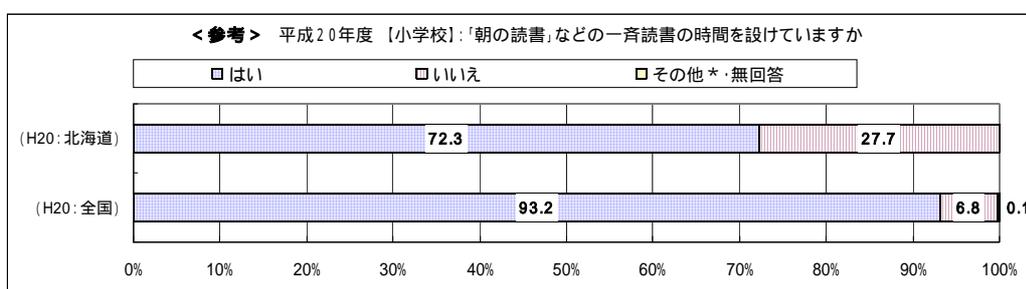
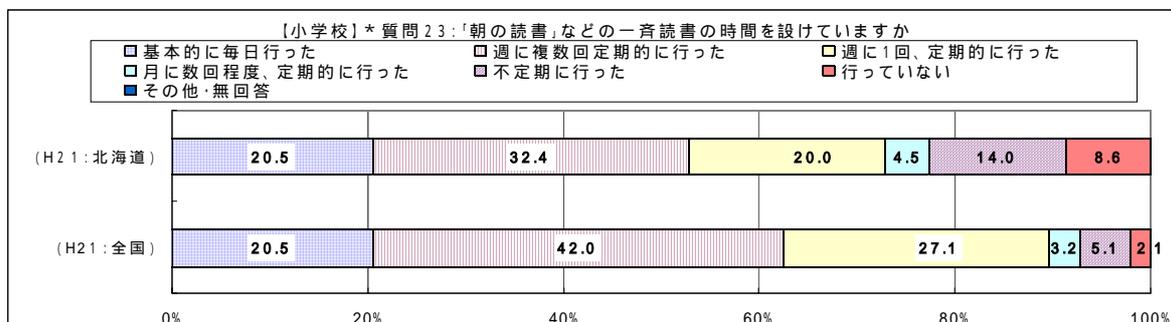


児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.5ポイント、中学校調査においては6.4ポイント高い。



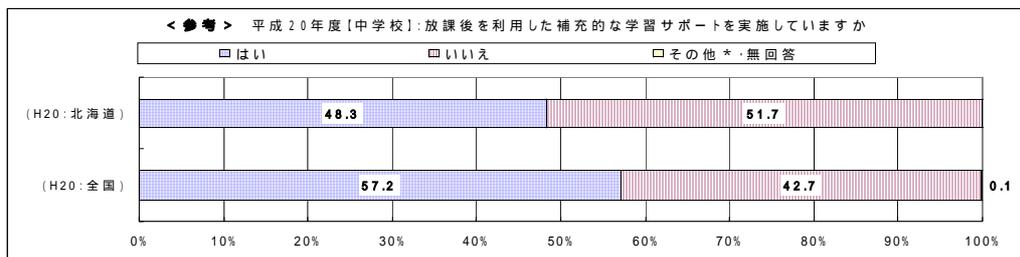
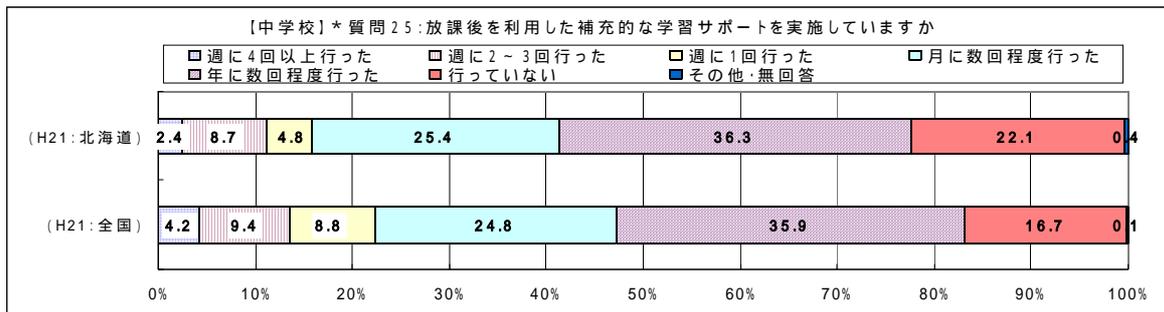
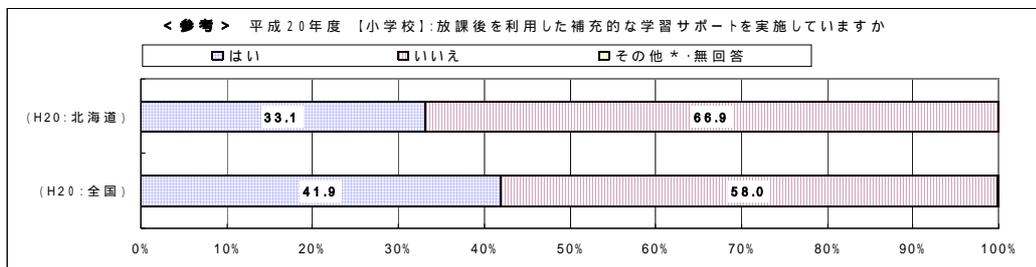
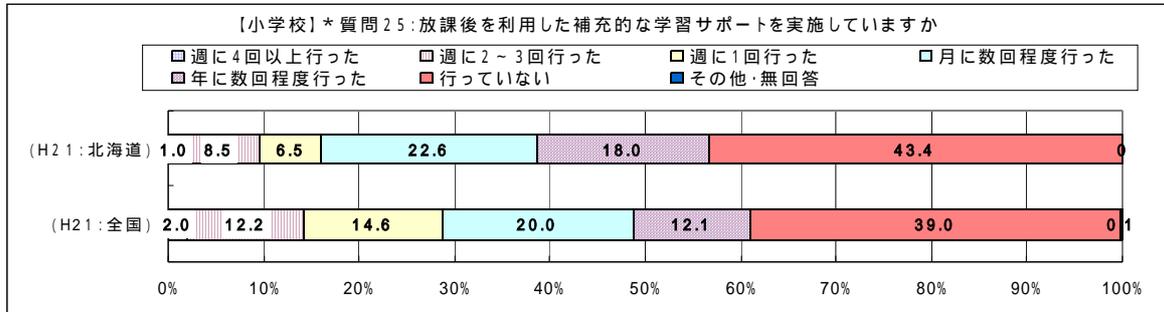
< 学力向上に向けた取組 >

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度より高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては6.5ポイント、中学校調査においては19.4ポイント低い。

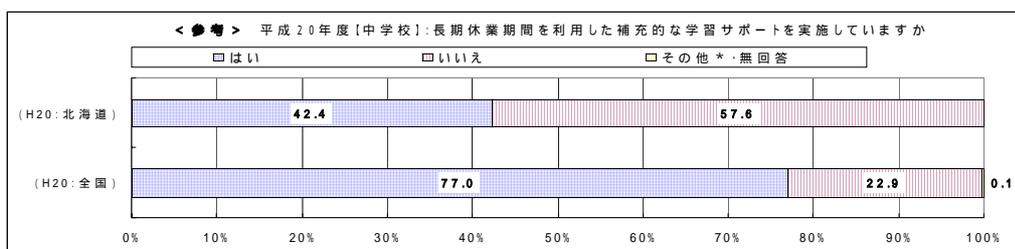
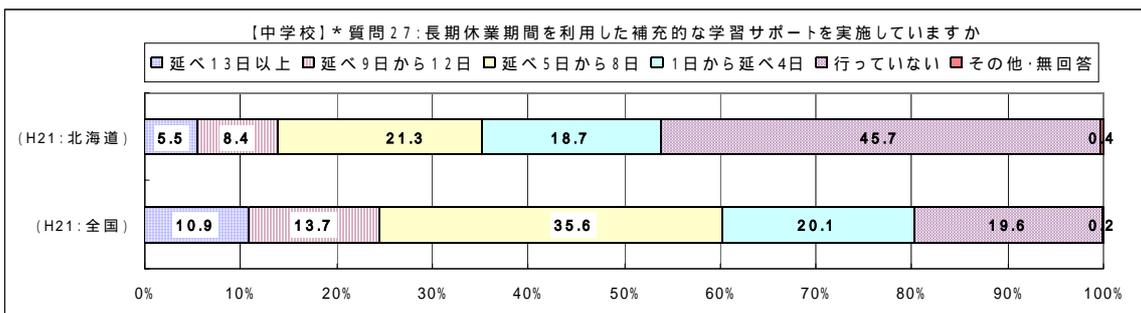
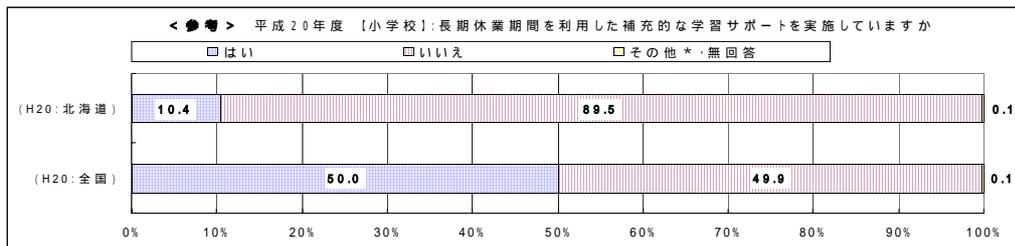
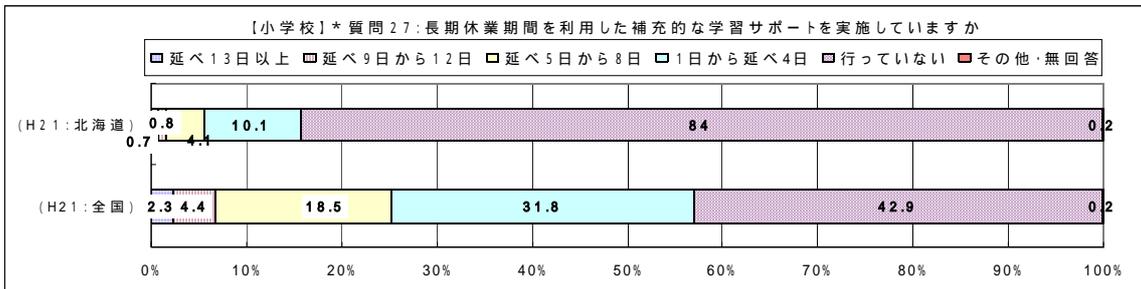


< 学習時間等 >

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度より高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては4.3ポイント、中学校調査においては5.5ポイント低い。

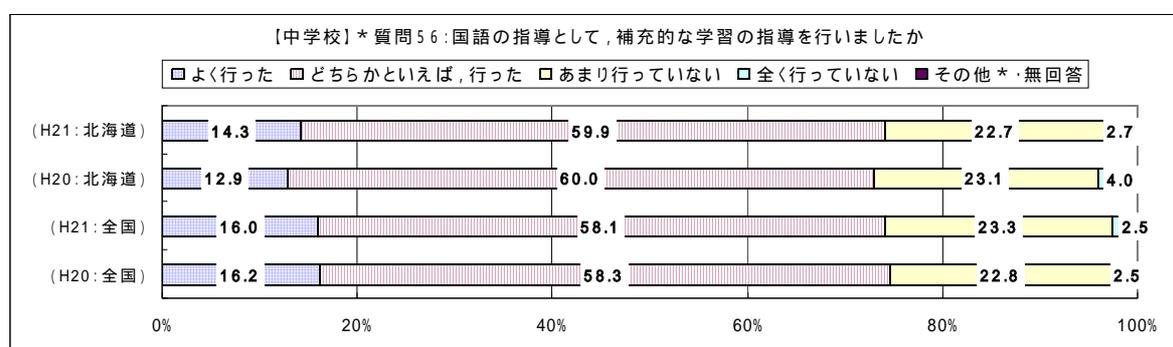
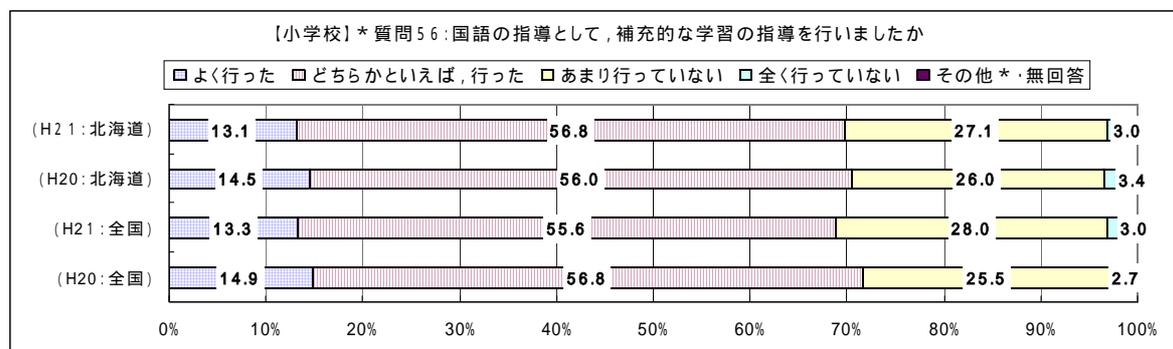


長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度より高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては41.3ポイント、中学校調査においては26.4ポイント低い。

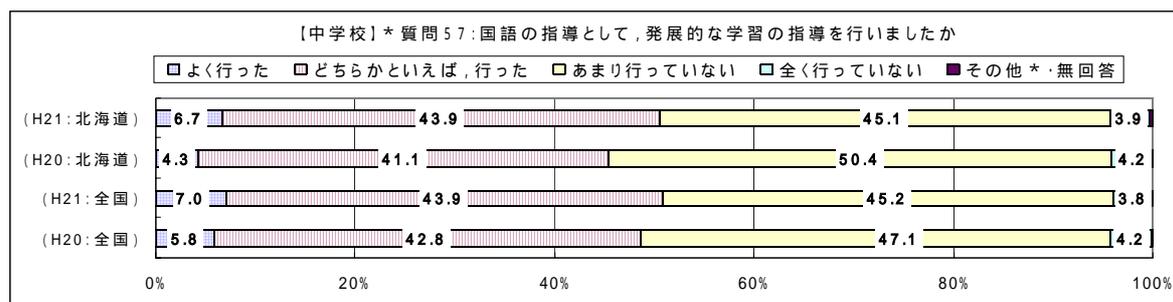
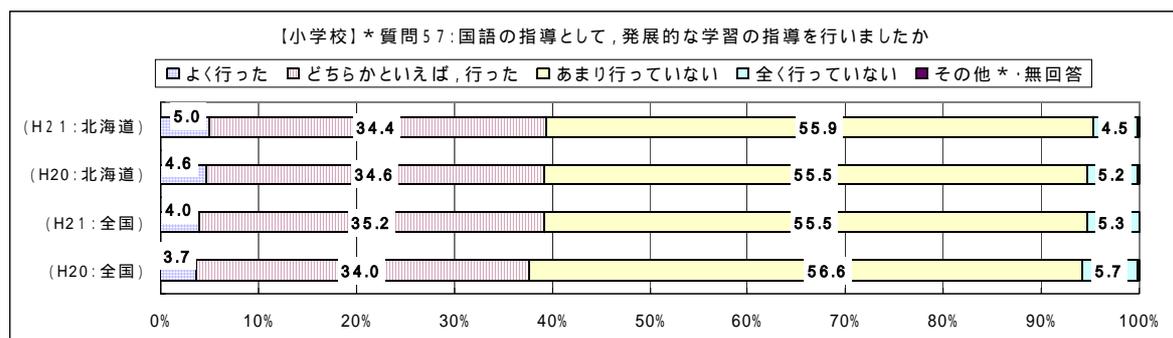


< 国語科、算数・数学科の指導法 >

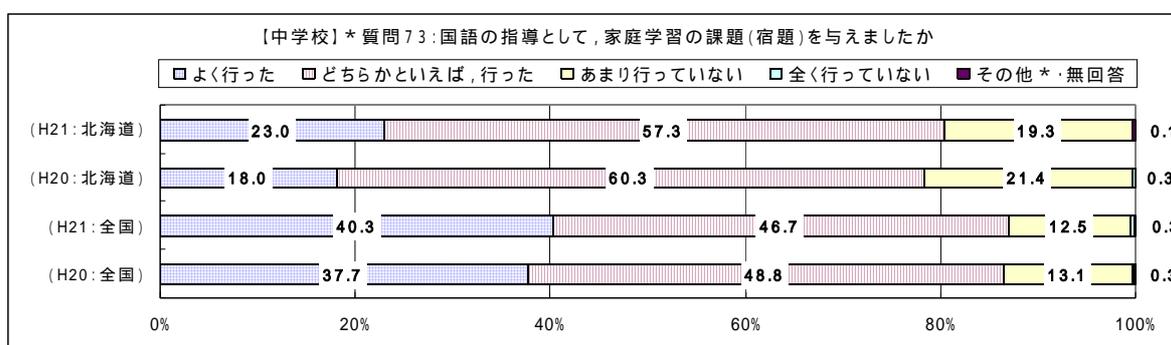
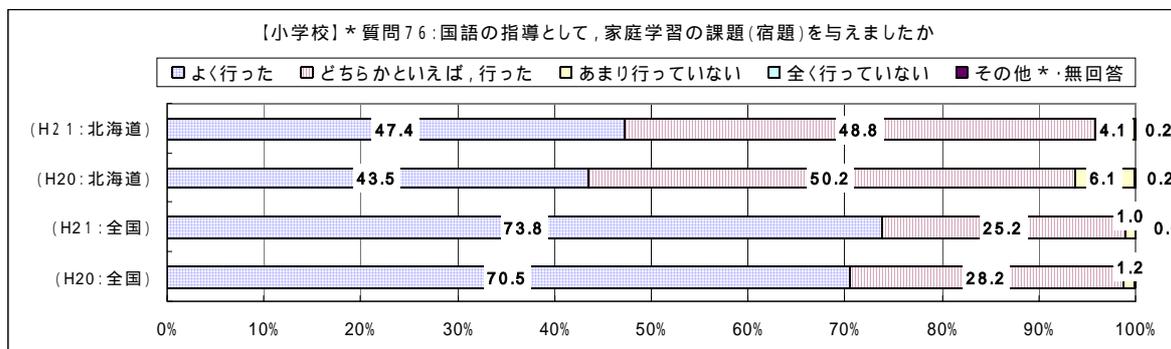
国語の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



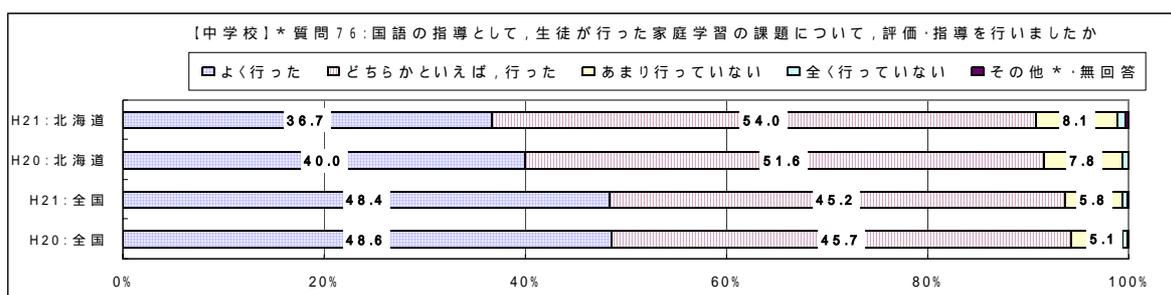
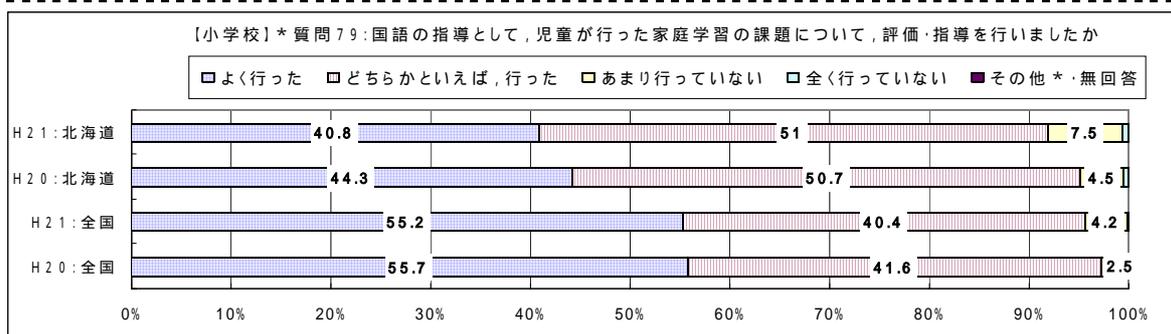
国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向がうかがえる。



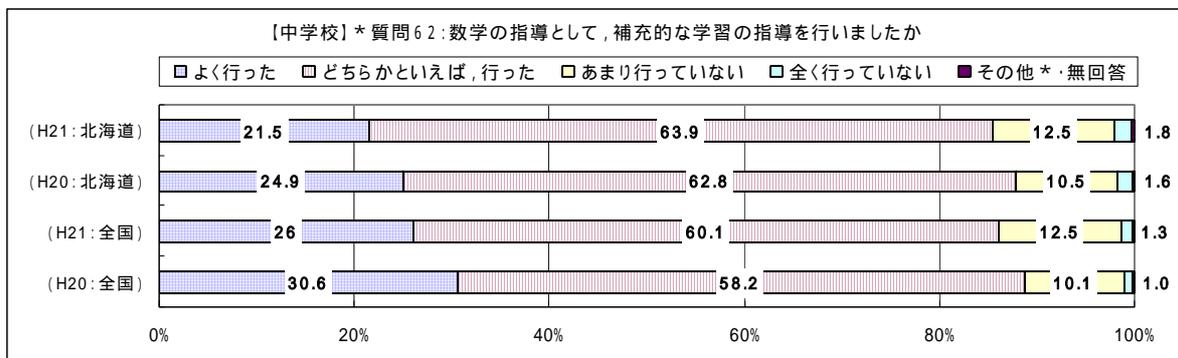
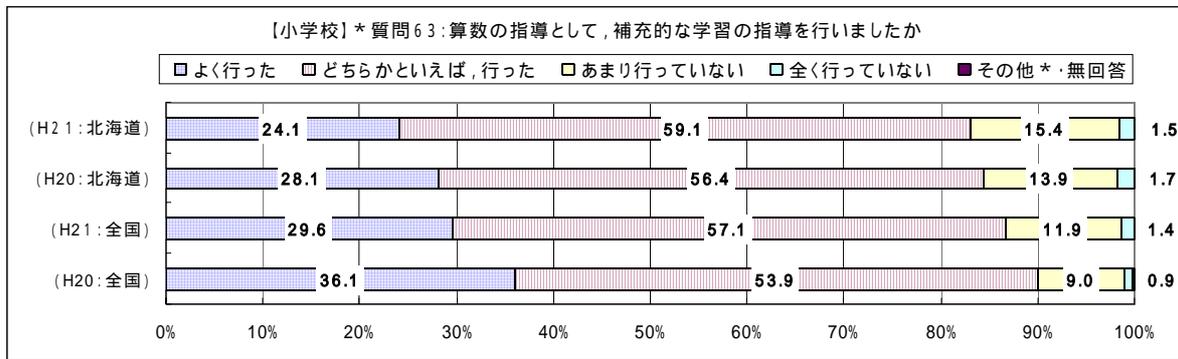
国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様、中学校調査においては6.7ポイント低い。



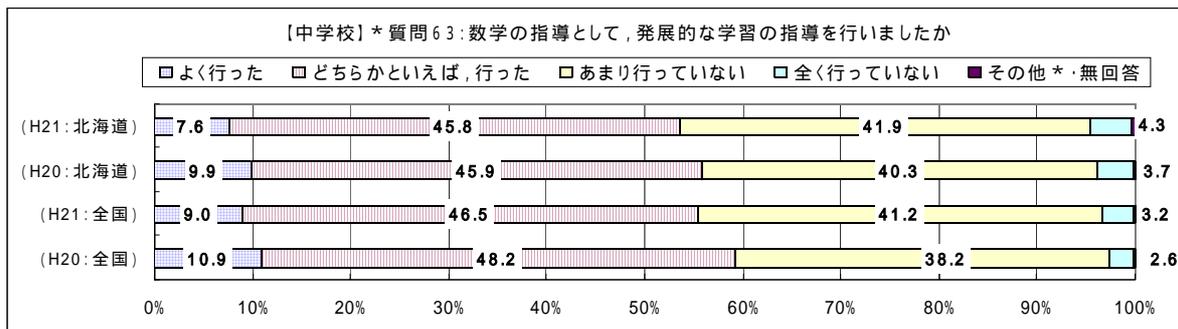
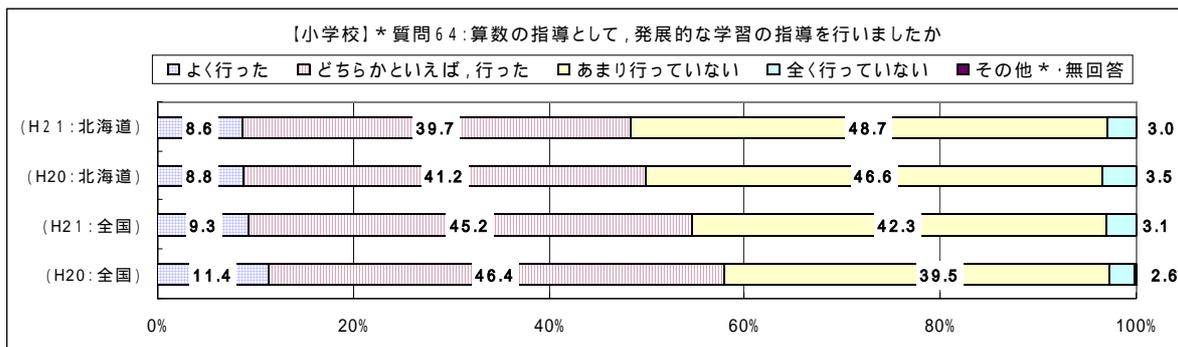
国語の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、昨年度よりも小学校調査においては若干低い傾向、中学校調査においては同様の傾向がうかがえる。全国と比べて小学校調査においては3.8ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



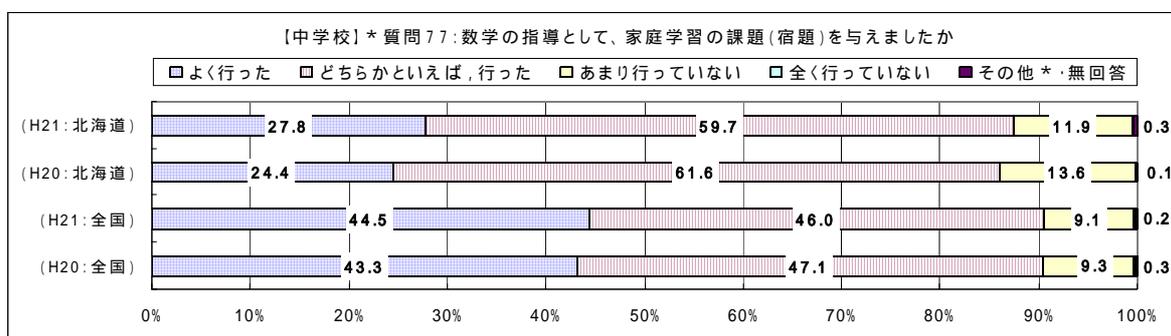
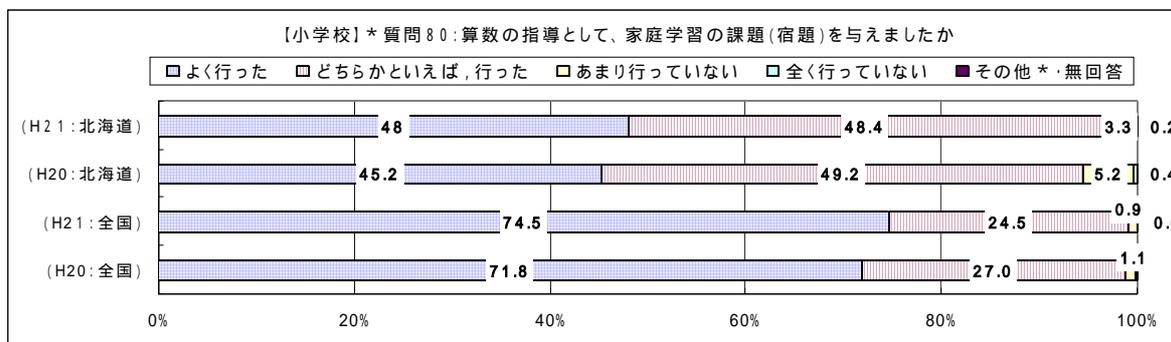
算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.5ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



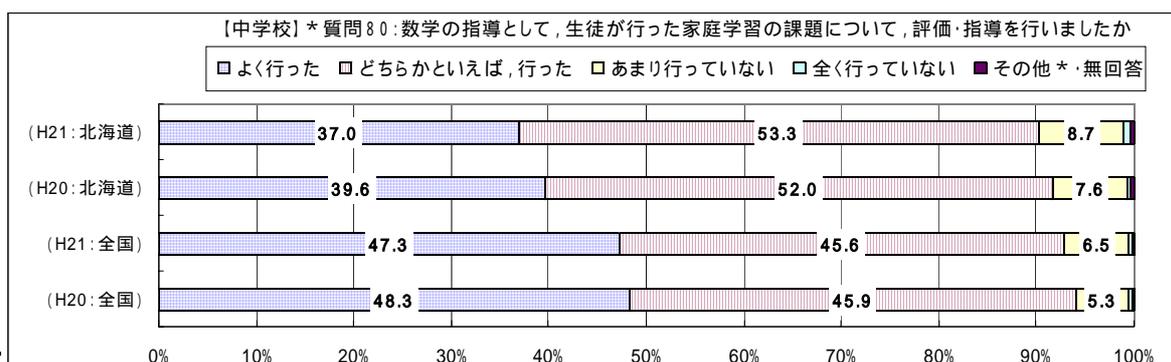
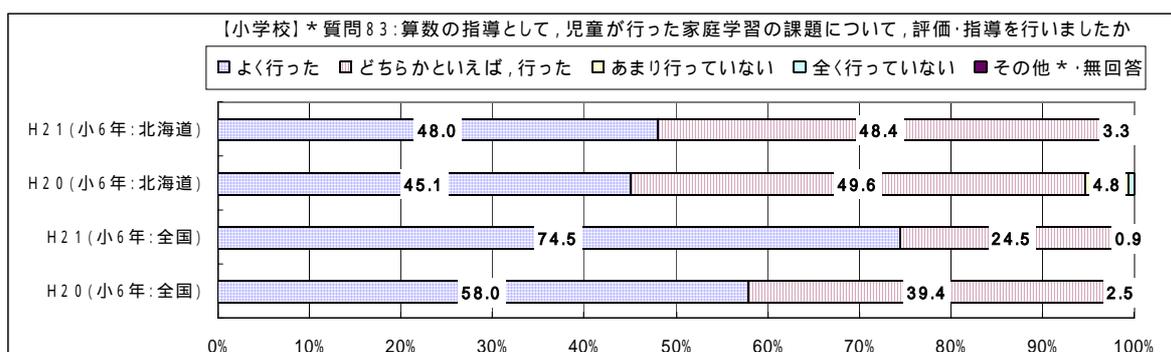
算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては6.2ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様、中学校調査においては3.0ポイント低い。

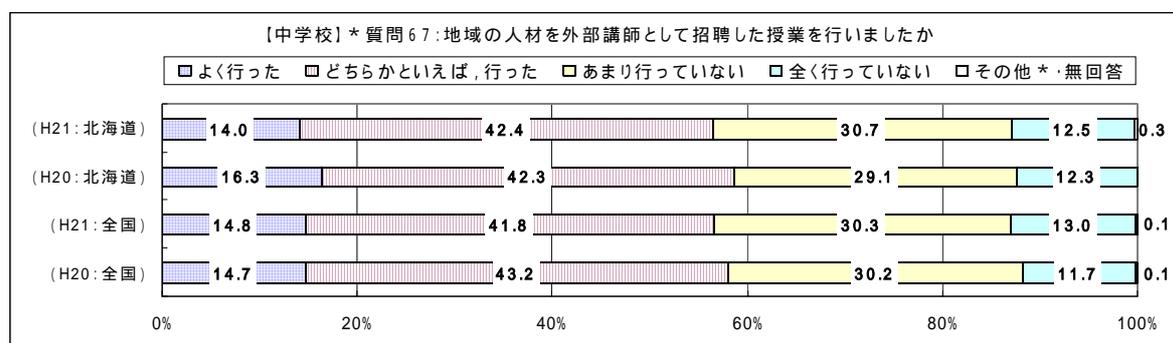
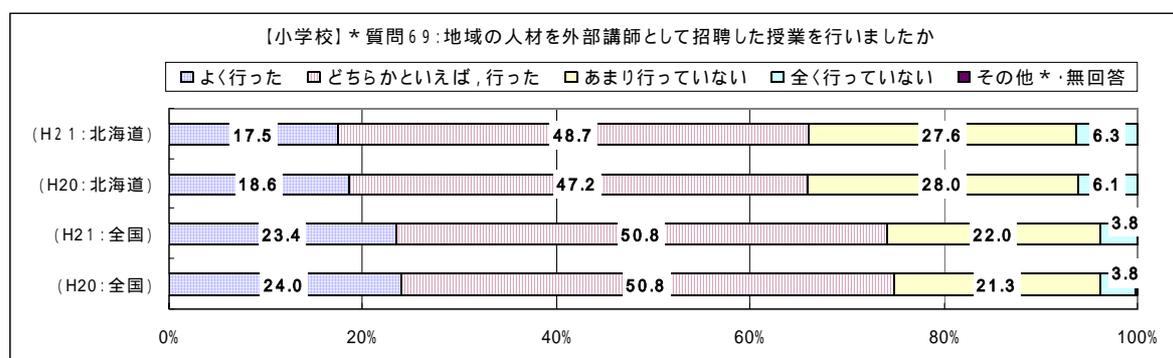


算数・数学の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

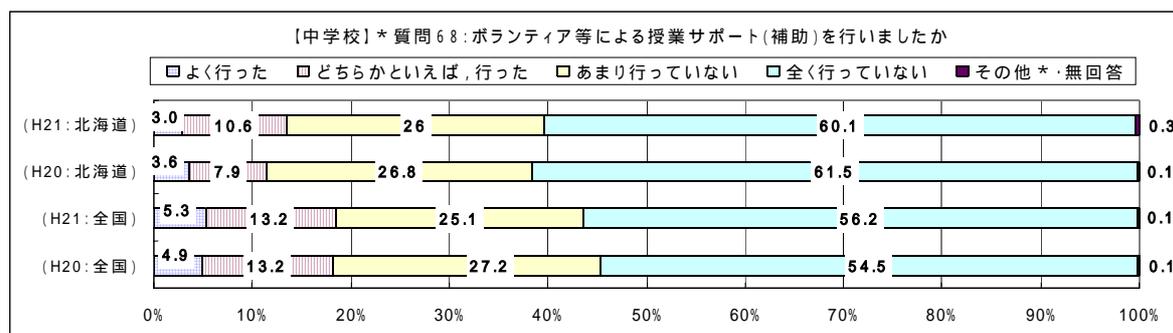
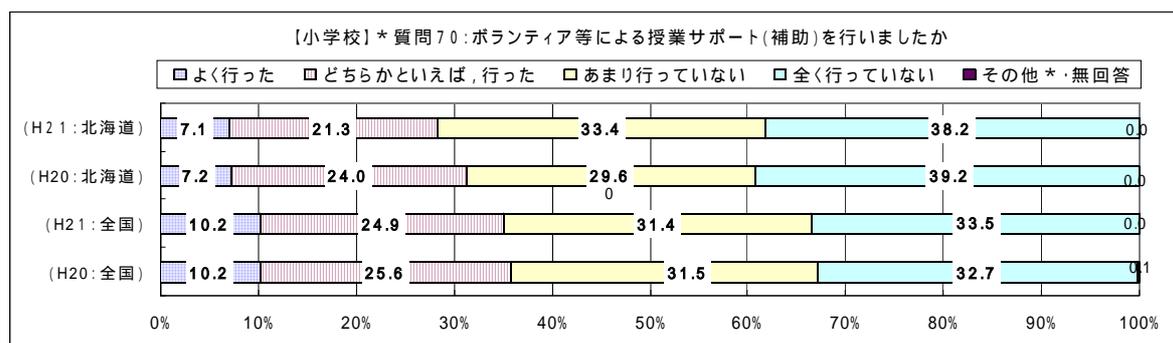


< 地域の人材の活用 >

地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては8.0ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。

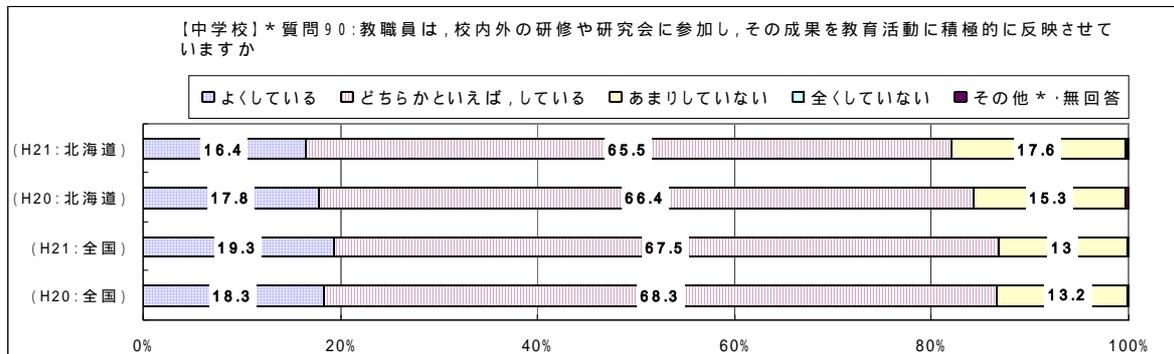
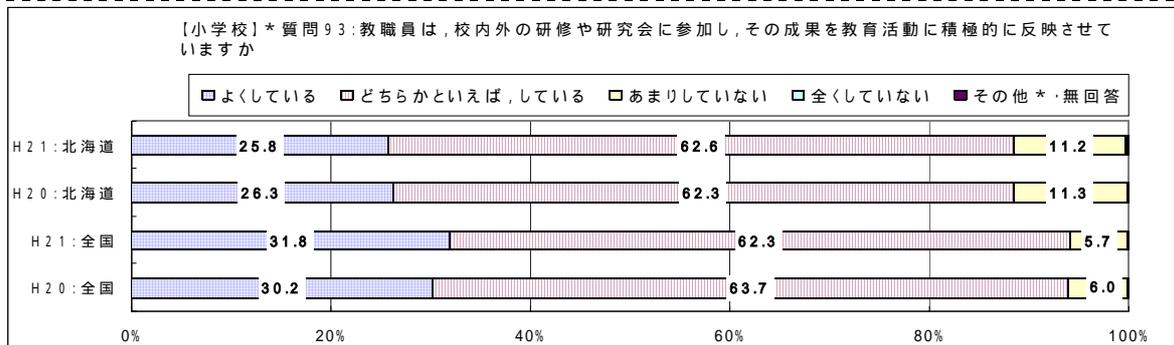


ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては6.7ポイント、中学校調査においては4.9ポイント低い。

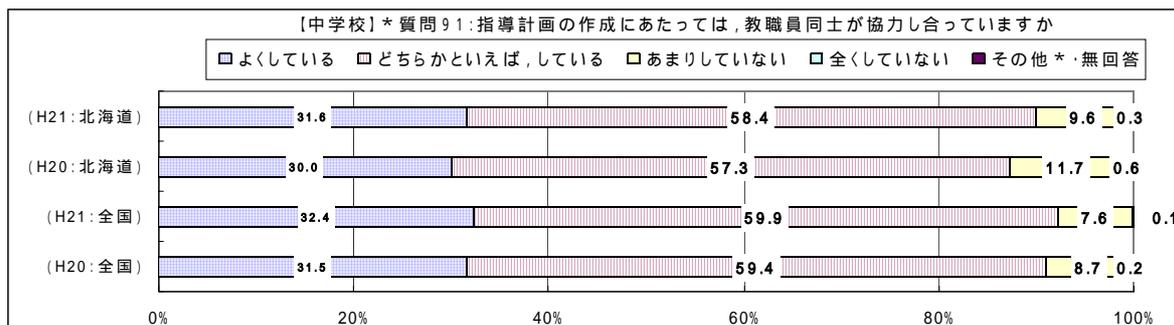
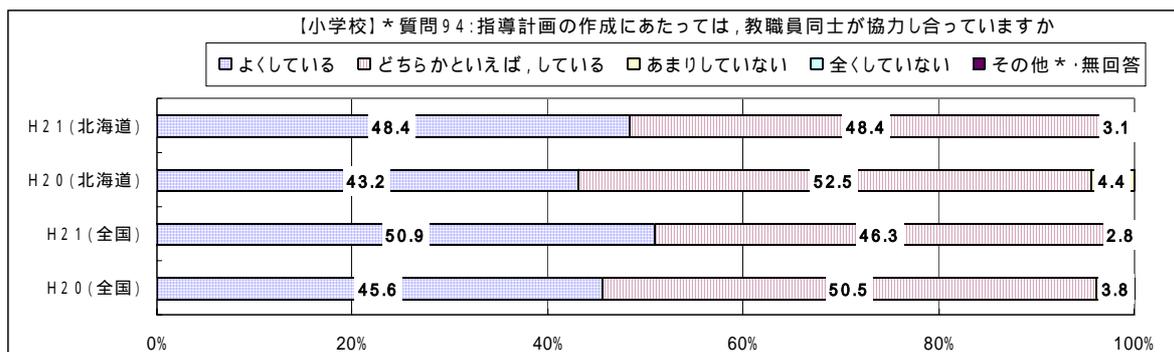


教職員の取組

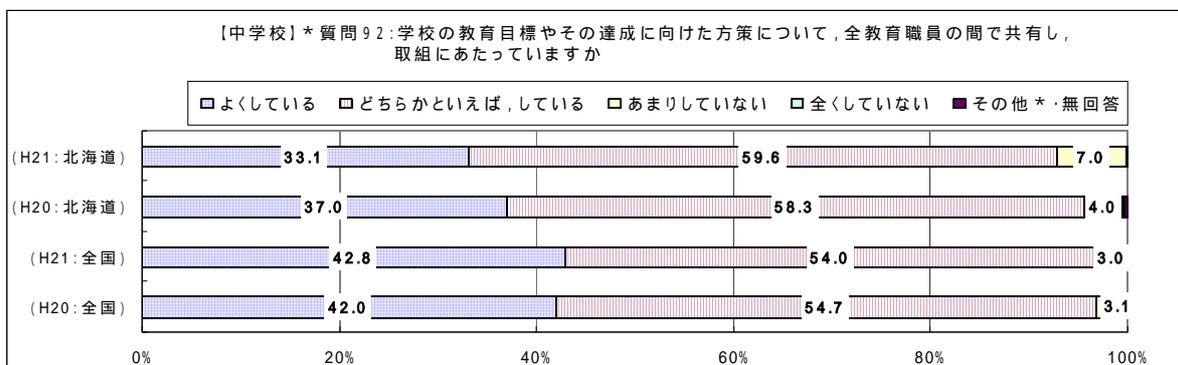
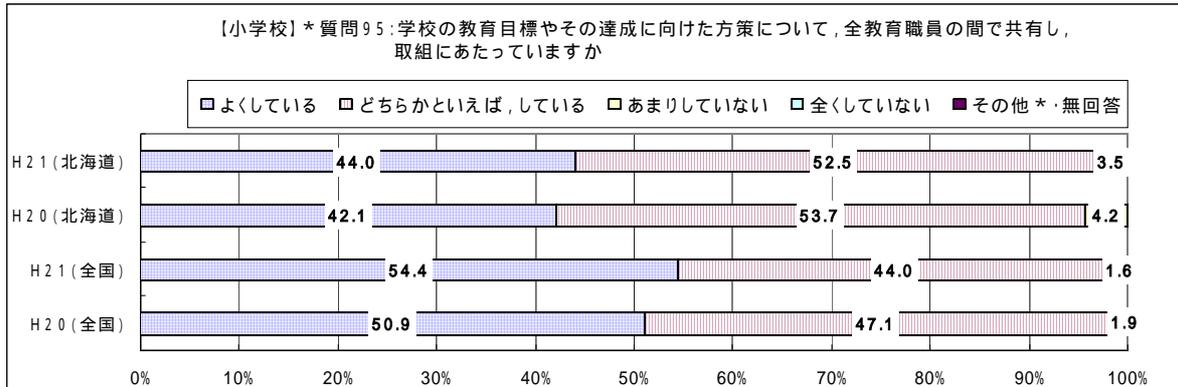
教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては5.7ポイント、中学校調査においては4.9ポイント低い。



指導計画の作成にあたって、教職員同士が協力し合っている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたっている割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向、中学校調査においては4.1ポイント低い。



全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は、昨年度よりも小学校調査及び中学校調査において高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

